

右代人

大坂府下第三大區五小

區薩摩堀裏町四十一番

地平民

泉 佐 七

大坂上等裁判所ノ審判

原告 大庭卯右衛門代人藤卷正太控訴ノ要領 明治十年八月廿七日

第一條

原告大庭卯右衛門ニリ被告仁木英太郎亡父孫市ヘノ貸附金ハ明治八年七月中孫市ニ於テ川勝太兵衛ナル者所有ノ地所建家買得ノ爲メ金圓借リ受ケ度旨願談ニ付即明治七年十月大坂府布達質入書入規則ニ照準シ左ノ證書ヲ取リ金千圓ヲ貸與セリ

第壹號

第十九號

書入確證

一金千圓也 但 利足金百圓ニ付 壹ヶ月金壹圓定

第一大區十六小區瓦町二丁目五十一番地地券壹通

同區同町五十二番地地券壹通

右地所ノ内建家不殘本口前付土藏四ヶ所別紙繪圖面ノ通渾テ有姿ノ儘

右此度書入引當ニ致來明治九年六月限書面金高儘ニ借用致候處實正也然ル上ハ毎月廿五日期限利足金拾圓宛無相違相渡地租區入費此方ヨリ相勤可申候萬一限月ニ至リ返濟相滯候ハ、右地所建家土藏等賣拂元利無相違可致返濟候自然金高不足相立候ハ、何程ニテモ相償可申候若本人違約仕候ハ、請判ノモノ引受前書ノ

通速ニ返償致貴殿へ聊御損難相掛申問敷爲後證仍テ如件

明治八年七月廿五日

書入金借用主

仁 木 孫 市印

請人

仁 木 駿 次 郎印

大庭卯右衛門殿

前書之通相違無之候也

戸長

村 井 伊 兵 衛印

會議所附箋略之

然ルニ明治八年第四百四十八號ヲ以建家書入質規則公布相成タルニ

付仍ホ右規則ニ照準シ明治九年二月十日左ノ公正證書ニ改正セリ

第二號證

第廿四號

地所書入確證

一金三百圓也

但利足壹ヶ月金百圓ニ付金壹圓定

第一大區十六小區瓦町二丁目五十一番地同大區同小區同町五十

二番地地券二通

右區内割印圖面ノ通

右此度書入引當ニ致シ來ル六月限書面金高儘ニ借用致候處實正

也然ル上ハ毎月廿八日限利足金三圓宛無相違相渡地租區入費此

方ヨリ相勤可申候萬一限月ニ至金子返濟相滯候ハ、右地所御規

則ニ效ヒ賣渡證文無相違相渡貴殿名前ニ御切換可被成候尤雙方

相對ヲ以賣却ノ上金子ニテ相渡候時自然不足相立本人辨償難相
整節ハ受人ヨリ殘金何程ニテモ相償可申候爲後證仍如件

明治九年二月十日

地所書入主

仁 木 孫 市印

請人

近 藤 久 助印

大庭卯右衛門殿

前書ノ通相違無之候也

戶長

村 井 伊 兵 衛 印

右圖面添書略之

第三號證

第廿五號

建物書入質確證

一金七百圓也 但利足金百圓ニ付
一ヶ月金壹圓定

第一大區十六小區瓦町二丁目五十一番地同五十二番地ニ有之候

建物別紙區内割印圖面ノ通

但地所我等
所有地也

右此度書入質致來ル六月限書面金高儘ニ借用致候處實正也然ル
上ハ毎月廿八日限利足金七圓宛無相違相渡區入費此方ヨリ相勤
可申候萬一限月ニ至リ金子返濟相滯候ハ、右建物御規則ニ倣ヒ
賣渡證文無相違相渡貴殿名前ニ御切換可被成候尤雙方相對ヲ以
賣却ノ上金子ニテ相渡候時自然不足相立本人辨償難相整節ハ受
人ヨリ殘金何程ニテモ相償可申候爲後證仍如件

明治九年二月十日

建物書入質置主

仁木孫市印

請人

近藤久助印

大庭卯右衛門殿

前書ノ通相違無之候也

戸長

村井伊兵衛印

右圖面添書略之

右證書取置タル處借主孫市外事件ニテ豐岡縣へ拘留中明治九年八月十五日死去シタルニ因リ相續人英太郎へ係リ屢督促スレトモ不

將明ニ付不得止明治十年六月廿九日大坂裁判所へ出訴シタル處既ニ山口吉郎兵衛ナル者ヨリモ被告英太郎へ係リ證書改請求ノ訴ヲ爲シ終ニ明治十年七月廿八日同裁判所ニ於テ山口吉郎兵衛へ證書改正相渡スヘキ旨判決相成タリ然ルニ被告英太郎右裁判不服ニテ控訴スヘキ旨届出タルニ付右終審裁判決定迄原告ノ訴ハ裁判中止トノ達ヲ受ケタルニ因リ其否ラサル所以ヲ上申セシニ明治十年八月十日左ノ判決ヲ受ケタリ

第四號

大庭卯右衛門ヨリ被告仁木英太郎ニ對シ請求スル貸金額返濟スルハ他ニ關スヘキ筋ナシト雖モ其抵當トセシ家屋賣却シ單ニ宇右衛門へ其代價ヲ以返償スヘキ原被告情願ニ於テハ該家ハ既ニ山口吉郎兵衛へ書入質公正證書ヲ可致裁判ニ及ヒ被告英太郎

不服ナルヲ以テ控訴シ未ク其確定ノ裁決ヲ經サレハ該家屋ヲ賣却
シ卯右衛門へ濟方受度旨ノ申分採用難致事

明治十年八月十日

大坂裁判所印

第二條

第一條ニ陳述シタル大坂裁判所ノ裁判ヲ假リニ確定ノモノナリト
セハ原告ノ公正證書ハ何等ノ裁判ヲ經スシテ自ラ無効ニ屬スルモ
ノナリ已ニ之ヲ無効ナリトセハ明治八年第四百四十八號公布建家書
入質規則モ自ラ無効ト云ハサルヲ得サルナリ然ラサレハ原告ニ於
テ右規則ニ照準シ第一番ニ受取タル公正ノ證書ナレハ其効ヲ有ス
ヘキハ勿論ナリ然リ而テ孫市カ西尾庄次郎へ差入レシ抵當ハ右建
家未ク孫市ノ所有トナラサル以前ノ書入レニシテ且明治七年大坂

府布達書入規則ニモ乖戾シタルモノナレハ其抵當ノ効ヲ有セサル
ハ明カナリ又明治八年百四十八號ノ公布ニ照スモ原告へ受取タル
證書ハ明治九年二月十日ニシテ山口吉郎兵衛ヨリ證書書改テ出訴
シタルハ其年四月廿九日ナレハ原告ニ於テ第一番先取ノ特權アル
ハ明瞭ナルヲ大坂裁判所ニ於テ是等ノ理由ヲ推究セス裁判ヲ與ヘ
ラレシハ不服ナリ

被告 仁木英太郎代人泉佐七答辨ノ要領

被告亡父仁木孫市ニ於テ原告大庭卯右衛門ヨリノ借入金ハ明治八
年六月十八日川勝太兵衛所持ノ地所并建家トモ金千五百圓ニテ讓
受ノ約定ヲ爲シ明治八年七月廿五日帳切ニ付右代金ノ内千圓ヲ原
告ヨリ借受而右孫市豐岡縣へ引立ノ後泉佐七委任ヲ受ケ明治九年
二月十日戸長與印ノ上原告第二三號證書ヲ渡シタリ其後明治九年

八月十五日孫市拘留中死去セシ故返金方遷延相成タルヨリ終ニ出
 訴セラレタルニ金調ノ目途無之ニ付豫テ抵當ニ差入タル該地所建
 家トモ糶賣ノ上償却致度申立タル處該建家ハ西尾庄次郎ノ證書讓
 受人山口吉郎兵衛ナル者ヨリモ證書書改メテ大坂裁判所へ出訴ニ
 及ハレ終ニ明治十年七月廿八日同裁判所ニ於テ大庭卯右衛門又ハ
 舊豐岡縣へ公正證書相成有之トモ孰レモ庄次郎ノ後債主タレハ公
 證ヲ受ルノ遲速ニ依テ權利ヲ失スヘキ筋無之ニ付地所ヲ除キ該建
 物書入第一番金主タルノ公正證書相渡スヘキ等申渡シテ受ケタル
 此承服難致ニ付其件モ既ニ控訴ニ及ヒタリ而本訴ニ付テハ實際原
 告申立ノ通聊相違無之ニ付右抵當ノ物件糶賣ノ上順次負債償却セ
 ンコト欲ス

判決文

原告(大庭卯右衛門)ニ於テ本訴地所建家ノ儀ハ明治八年七月二十五
 日被告(仁木孫市)ヨリ貸金抵當トシテ明治七年大坂府質入書入規則
 布達ノ通戸長奥印ヲ請ケ公正證書ヲ取置キ尙明治八年第四百十八
 號建家書入規則公布ニ因テ明治九年二月十日公正證書ニ改メダレ
 ハ特權ヲ得ヘキハ勿論ナル旨申立レモ該地所建家ハ被告仁木
 孫市ニ於テ明治八年四月十五日西尾庄次郎ナル者へ抵當ニ差入之
 レアリ原告ノ抵當ニ取シハ其後明治八年七月廿五日ナレハ即チ第
 二番ノ抵當トス然レモ地所ノ儀ハ西尾庄次郎ニ於テ公正證書取置
 サルニハ其特權ハ之レナキ者ト雖モ建家ノ儀ハ明治八年第四百十
 八號建家書入規則公布ニ因リ有證書改正ノ儀ヲ其出訴期限内即チ
 明治九年四月二十九日大坂裁判所へ訴出タルニ於テハ該證書ニ戸
 長奥印ノ有無ニ關ハラス第一番書入ノ特權ヲ有スヘキ者ニテ其出

訴ノ日ト原告ニ於テ公正證書ヲ受取タル日トノ早晚ヲ以テ特權ノ有無ヲ分ツ理由ナシ〔仁木孫市〕ヨリ且庄次郎ヘノ抵當ハ未タ被告仁木孫市所有ニ成ラサル以前ノ契約ナル旨申立レ且該建家等ハ被告〔仁木孫市〕所有ト相成ルノミナラス其地券證ニ於テハ既ニ庄次郎ヘ相渡シ有之ヲ以テ觀レハ川勝太兵衛ト賣買約定ノ後ナリト看認メサルヲ得ス

前條ノ理由ナルニ因リ原告ニ於テ第一番抵當ナリトノ申分不相立事 明治十年十月廿四日

大審院ニ於テ

原告 大庭卯右衛門代人大庭宗兵衛上告ノ要領

第一條

大坂上等裁判所ノ判文ニ該地所建家ハ被告ニ於テ明治八年四月十

五日西尾庄次郎ナル者ヘ抵當ニ差入レ之レアリ原告ノ抵當ニ取リシハ其後明治八年七月二十五日ナレハ則第二番ノ抵當ト云々トアレ且原告ノ抵當ニ取リシ明治八年七月二十五日ハ則チ地所建家帳切リノ當日ニテ此時始テ川勝太兵衛ノ所有ヲ離レ孫市ノ所有トナリシモノニテ西尾庄次郎カ抵當ニ取リシ明治八年四月十五日ハ未タ孫市ニ所有權傳移セサル三ヶ月モ以前ナレハ原告ニ於テ第一番先取ノ特權有ルハ勿論ナリ且孫市カ西尾庄次郎ヘ抵當ニ差入レタル明治八年四月十五日ハ該地所建家トモ現ニ川勝太兵衛ヨリ大庭宗兵衛ヘ書入レアリテ其地券證ニ於テモ亦大庭宗兵衛ヘ預リアリシモノナレハ未タ川勝太兵衛ノ所有ヲ離レサルハ明瞭ナリ然レ且此一段ニ就テハ大坂上等裁判所ニ於テ何等ノ審問モアラサリシニ由リ原告ニ於テモ此手續ノ如何ハ敢テ本訴ノ要點ニアラサルモ

ノト心得別段陳述ニハ及ハカリシナレモ是レ當時孫市ニ所有權ノ
 傳移セカリシコトヲ證明スルコト足ルモノナラシ然ルチ大坂上等裁判
 所ニ於テハ既ニ地券證ノ西尾庄次郎ヘ差入レアルト云フヲ以テ原
 告チ第二番ノ抵當ナリトノ判決ヲ與ヘラレシハ不盡ノ裁判ナリト
 思考ス

第二條

大坂上等裁判所ニ於テハ西尾庄次郎ニ於テ證書改正ノ儀チ其出訴
 期限内ニ大坂裁判所ニ訴ヘ出タルニ由リ該證書ニ戶長與印ノ有無
 ニ關ハラス第一番書入レノ特權チ有スヘキモノナル旨ヲ判定セラ
 レタレモ抑モ大坂府下ニ於テハ地所并建家チ賣買若シクハ書入チ
 爲スニハ都テ戶長役場ノ手數チ經サレハ其効力チ有セサルノ習慣
 ナリ然ルチ西尾庄次郎ニ於テハ此ノ手數チ盡サルノミナラス明

治七年大坂府布達地所建家書入質規則チモ遵守セサルモノナレハ
 假令明治八年第四百八號ノ公布ノミチ遵守シ其證書々改メ期限
 内ニ願出シモノナルニモセヨ既ニ原告カ大坂府ノ習慣ニ據リテ戶
 長役場ノ手數チ經又大坂府ノ布達チ遵守シ而モ明治八年第四百拾
 八號公布ニ照準シ公正ノ證書ニ更改セシ一點無欠ノ證書ニ對シ此
 ノ効力チ殺滅スルコトヲ得ヘキモノニハアラサルヘシ然ルチ大坂上
 等裁判所ニ於テハ却テ西尾庄次郎カ證書チ以第一番書入ノ特權チ
 有スヘキモノナリトノ判決ヲ與ヘラレシハ不服ナリ

第三條

判文ニ其地券證ニ於テハ既ニ西尾庄次郎ヘ相渡シ有之ヲ觀レハ川
 勝太兵衛ト賣買約定ノ後ナリト認メサルチ得ストアリ然ルニ第一
 條陳述ノ如ク右地券證ハ當時大庭宗兵衛ヘ預リ置キテ其後明治八

年七月二十五日區務所ニ於テ金圓ト交換シ直ニ第二號第三號證ト
 共ニ原告ニ請取置ケリ而シテ明治八年八月十二日孫市ニ於テ右地
 券面坪數ト現坪數ト齟齬アルヲ以テ書改メ願出度ニ付暫時貸渡シ
 吳レヘキ旨ノ軈談ニ由リ地券證ヲ貸與シタレヒ明治八年四月十五
 日ニ右地券ノ西尾庄次郎ニ相渡シアルノ道理ナシ尤明治八年八月
 十二日孫市ニ一時地券ヲ貸與セシコトハ裁判上ニ於テ別段妨礙ナキ
 モノト信認シ大坂上等裁判所ニハ申供セサリシナリ然リ而大坂府
 下ノ習慣ニ於テハ地所建家ノ賣買ヲ爲スニ戶長役場ノ手續ヲ要ス
 ルコトハ既ニ第二條ニ陳述セシ如クナレハ假令孫市ニ於テ川勝太兵
 衛ト賣買約定ヲ爲セシモノナルニモセヨ其手續ヲ經サル限リハ之
 ヲ真正ノ契約ナリト見認ルコト得ヘカラサルハ當然ナルニ大坂上
 等裁判所ニ於テハ其地券ノ如何ナル手續ニテ何月何日西尾庄次郎

ニ相渡シアル歟ノ原由ヲモ審問ナクシテ只地券證ヲ所有スルト云
 フヲ以既ニ賣買約定ノ後ナリト認メラレシハ不當ノ裁判ナリト思
 考ス

被告 仁木英太郎代人泉佐七答辨ノ要領

被告亡父孫市儀明治七年十二月中ヨリ川勝太兵衛所有ノ建家ヲ借
 リ受ケ敷金トシテ金貳百圓ヲ差入レ又右家賃トシテ壹ケ月金拾貳
 圓宛ヲ貳个月毎ニ相拂フヘキノ約定ナリシニ其後該地所建家トモ
 代價金千五百圓ヲ以テ孫市ニ買取ルヘキノ約定相整ヒ兼テ差入レ
 アリシ敷金貳百圓ヲ手附金ニ引直シ右賣買約定證書ヲ川勝太兵衛
 ヨリ請取置ケリ而シテ右家賃ハ明治八年六月迄相拂ヒ來リシニ其
 年七月十八日金三百圓ヲ差入レ殘金千圓ハ其月廿五日ニ引渡シ此
 日區務所ニ於テ帳切ヲナシタリ然ルニ自分儀ハ此日孫市ノ代理ト

シテ區務所ニ於テ立會ヲナセシマテニテ前述ノ事蹟ハ其後孫市死去セルヲ以其如何ヲ承知セサルニ付何年何月賣買約定證書ヲ授受セシモノナル歟又其證書ハ何年何月ニ川勝太兵衛へ返却セシモノナル歟ハ詳ラカナラサレトモ明治十一年十一月中川勝太兵衛ノ帳簿ニ就テ之ヲ觀ルニ右賣買約定證書ハ明治八年四月廿五日附ケナル趣帳簿中ニ明記アリ又孫市ノ帳簿中ニハ西尾庄次郎ヨリ金圓ヲ借リ受ケシトモ川勝太兵衛ト賣買約定爲セシトモ記載アラサルニ由リ其事實如何ハ詳ラカナラサレトモ兼テ川勝太兵衛へ差入レアリシ數金貳百圓ヲ手附金ニ引直シ其後明治八年七月十八日金三百圓ヲ川勝太兵衛へ引渡セシトハ孰レモ其帳簿中ニ記載アリ然ルニ數金ヲ手附金ニ引直セシトノ月日ハ右帳簿中ニ見當ラサレトモ川勝太兵衛ヨリハ明治八年四月廿五日ト承知セリ前述ノ外ハ悉皆大坂上等

裁判所へ申供ノ通ニ付原告ノ證書ハ第一番債主ナルノ効力ヲ有シ山口吉郎兵衛ノ證書ハ却テコノ効力ナキモノナリト思考スレトモ畢竟先取ノ權孰レノ債主ニ歸スルモ被告ニ於テハ敢テ損益ノ關スル所ニアラサレハ強テ之ヲ主張スルコトヲ欲セサルニ付更ニ至當ノ裁判アラシクナラズ

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一 川勝太兵衛ノ建家ヲ被告英太郎(父孫市)カ明治八年四月十五日西尾庄次郎ナル者へ抵當ニ差入シトノ裁判ナレトモ右八年四月十五日ハ未タ孫市へ該建家所有ノ權移ラサル以前ナレハ第一番書入ノ効力有セサルトノ事

第二 上告人カ所持セル證書ハ大坂府ノ習慣ニ因リテ戶長役場ノ手數ヲ經又大坂府ノ布達ヲ遵守シ而シテ明治八年第四百四十八號

公布地所建家書入質規則ニ照準セシ證書ナレハ西尾庄次郎カ證書ノ爲メ此効ヲ殺滅スルコトヲ得サルトノ事

辨明

第一條

本訴家屋ノ所有權ハ當初川勝太兵衛ニアリシモノトス故ニ之ヲ審理セシニハ必先ツ該家屋ノ所有權ヲ有太兵衛ヨリ正シク仁木孫市ニ授受セシハ何年何月何日ナリシヤヲ審定セサルヘカラス何トナレハ若シ之ヲ審定セサルハ上告人カ曩キニ控訴〔要領第二條掲載〕ノ旨趣即チ孫市カ西尾庄次郎ニ差入レシ抵當家屋ハ未ダ孫市ノ所有トナラサル以前ノ書入ニシヤト云ヘル訴旨ヲ裁判スルニ由ナケレハナリ然ルニ大坂上等裁判所ノ裁判玆ニ基カス慢然該地所建家ハ被告〔仁木孫市〕ニ於テ明治八年四月十五日西尾庄次郎ナルモノニ抵

當ニ差入レ之アリト而已ニテ其抵當ニセシ家屋ハ果シテ被告亡孫市ニ於テ當時所有權アリシヤ否ヤ分明ナラサルカ故ニ該家屋抵當ニ取リシ債主中先取ノ權何人ニ歸スヘキヤ知ルヘカテサルニ因リ審理不盡ノ裁判ナリトス

第二條

上告要領第二條第三條中〔節約〕上告人カ所持セル證書ハ大坂府ノ習慣ニ因リ戸長役場ノ手數ヲ經又大坂府ノ布達ヲ遵守シ云々トイヘル條件ハ第一條ニ辨明セシ條件ヲ裁判セシ上ニテ判決スヘキ事ナルヲ以テ之カ辨明ヲ與ヘス

判決

前條ノ理由ナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ東京上等裁判所ニ移スヨリ同裁判所ノ裁判ヲ受ヘキ者也

第百六拾八號

○定卸山地所押領申掛一件上告ノ判文 明治十一年三月卅日上告
明治十一年十月九日申渡

原告

新潟縣下越後國頸城郡

御前山村平民田原金藏

外三十一名總代

東京府下第五大區二小

區淺草小島町三拾五番

地寄留茨城縣士族

尾 木 漸

被告

新潟縣下越後國頸城郡

上野村平民齋藤仁平治

外九十八總代

○

同縣下同國同郡高田下
小町平民

石 津 與 七 郎

東京上等裁判所ノ審判

原告 上野村總代齋藤庄三郎石津與七郎控訴ノ要領 明治九年十二月十一日

第一條

論所原告村所屬草山ノ内字舟木山七町六反貳畝廿九步六厘ノ場所
第一號證ノ如ク天和三年檢地帳ノ村受草山高四斗五升貳合ノ内ニ
テ被告御前山村ノ最寄ナルヲ以テ同村ニ入會定卸ニ入付依テ秣蒔
敷田畑開墾等モ原告上野村同様ニ被告村ニテモ致シ來レリ最モ習
慣ニテ別段小作證モ取置カサレハ後來異論ノ生セサル爲ニ被告村

藤兵衛伊藤兵衛新兵衛三郎兵衛ハ從前原告村ニ高請地モ之レアル
ニ付御付ハ右四人ノ名義ニ致シ置タルハ村中ヘノ御付ナル
カ故ニ第五號證ノ如ク定山手米貳斗八升六合四勺往古ヨリ増減ナ
ク被告村役場ヨリ取立來レリ

第二條

前條定山手米貳斗八升六合四勺ノ義ハ被告村ヨリ差出シタル請取
書ニヨレハ見取ト記載有之ト雖モ其實山手米ナルカ故ニ四拾年前
ヨリ明治四年迄ハ納得ノ上山手米ト記シタル請取書ヲ渡シ置タル
ヲ被告ニ於テ事實ノ顯ハレノコト怖レテ差出サルナリ

第三條

右貳斗八升六合四勺ハ論外ナル舟木山ノ内字宮野ヒエ澤ノ田畑反
別ニ割當テ御シ請タル旨被告主張スレモ右等ノ任譯證書決テ無之

往古ヨリ一手米ニシテ取立來リ第二號三號證書ニヨレハ舟木山最
寄近傍廣ク入會山ニ御シ付タルコト明瞭ナリ

第四條

被告ニ於テ主張スル宮野ヒエ澤ノ田畑ノミチ相定初ヨリ藤兵衛外
三人ニ限リ定米ヲ反別ニ割當テ御シ付タル者ナレハ第二號證ノ如
ク其度毎ニ持主名前反別米割付方等相違スヘキ謂レナシ是ニ由テ
之レヲ觀レハ被告ニ於テハ無證據ナルヲ時ヨリ勝手ニ割當タル
所爲ナルヲ判然ナリ

第五條

第六號證貞享三年十二月廿五日付ノ田方賣渡證文中ノ个所被告ニ
於テ吉田宮野トハ原告ノ即今ヒエ澤ト唱フル个所ト同地兩名ナル
旨主張スレモ原由不示其趣意ハ右證文面ニ下名舟木山ノ内吉田ト

記載有之而已宮野ヒエ澤ノ内ナルトノ記載ナシ元來右ケ所ハ該論
 所接屬新發知山ナル自村ノ者所有ノ雜木林ノ際チ吉田ト唱ヒ來リ
 タリ就テハ右證文面ニ貳升四合壹勺ハ前々ヨリ見取定年貢トアレ
 且其貳升四合壹勺ハ第五號證ノ貳斗八升六合四勺一手米ノ内ニシ
 テ實際山手米ナリ何トナレハ右賣渡證文面ニ檢地ノ節荒地ニテ高
 付不申ト記載有之ニ付則草山ノ内タルト明確ナリ其草山チ卸付開
 墾シタルニ付德米チ賣買シタル者ニテ素ヨリ公然タル貢租ニハア
 ラサルナリ

第六條

右賣渡證文面ノ貳升四合壹勺ハ藤兵衛等四人ノ外ナル又四郎ヨリ
 三郎右衛門へ賣渡シタルモノナレハ同人ヨリ別段貳升四合壹勺ノ
 年貢可相納處三郎右衛門ヨリ別段相納タルト無之故往古ニ不異一

手米ニテ被告村役場ヨリ取立來ル山手米ノ中ニ籠リタルト判然ナ
 リ又實際藤兵衛等へ割宛卸付タル者ナレハ第二號證ノ如ク被告村
 ノ取調タル反別持主米割付方等度々相逢スヘキ謂レ曾テナシ是則
 被告ノ陳述ノ如クナラサルト明確ナリ

第七條

該舟木山ハ第一號證自村草山高四斗五升貳合ノ一部分ニシテ素ヨ
 リ草山チ被告村藤兵衛等四人ノ名目チ以村中へ入會山ニ卸付稼チ
 許シタルニ付被告村ニテモ田畑開墾セシナリ原告村ニテハ該舟木
 山ノ内第十號證ノ如ク四度ニ四石五斗九升八合新高受チナシタレ
 トモ被告村ハ定御山ノ内チ新開チセシマナレハ高請モセサルナリ
 是則草山チ定御シニセシト判然ナリ

第八條

又被告ニ於テ論外ナル宮野ヒエ澤ノ地ノミチ藤兵衛等四人ニテ定請致シタル旨主張スト雖ヒ第三號證ノ如ク拾二筆ノ田畑ハ舟木山高定御ノ内被告村ニテ新開シタルニ付則地券取調ノ際從前山高ノ分ト脇書ニ記載シ調印ナシタル帳簿ヲ現ニ新潟縣地券課ヘ差出置タリ右新田ノ分ハ別ニ小作米ハ不取受定山手米貳斗八升六合四勺ノ内ニシテ舟木山廣シ入會稼ニ御付タルコト明確ナリ該脇書ニ山高ノ内ト書載シタルモノハ山手米ナルヲ證スル確乎タルモノニテ被告ノ之ヲ爭フニ由ナカルヘシ

第九條

又右ケ所最初實地取調ノ節ハ被告村ノ田原六兵衛田原仁左衛門田原新兵衛立會ニテ藤兵衛等四人ノ外ナル田原八左衛門外六人ノ者接内ナシ則野帳ヘ書留メ其上本帳ニ記シタル處明治八年十月十

二日被告田原萬阿彌倅嘉重外壹人立越調印ノ節ニ至リ廣シ舟木山ヲ御付タル實際顯レノコトヲ怖レ且第十二號證天和度ノ高請地ノ余歩ナル旨主張スルニ差響キ可申テ謀リ持主ヲ換ヘ嘉重自ラ張紙ノ上調印シタリ

第十條

該論所内ニ第八號證原告村ノ齋藤源七進退地ハ三ヶ所ニ別レ一ハ論外ニシテ二ハ飛テ論内ニアリト初審ニテ申立タレトモ右ハ舟木山ノ内繪圖面丙印ノ場所ニ相當リ被告申立ノ如ク舟木山ハ被告村受地ナラハ右源七ノ持地其内ニ交リ居ルノ理ナシ是レテ被告村高受地ニ非サル證トス又右場所並第九號證自村舟木治郎作所有ノ畑地右貳廉ハ被告村ニテ同村田原九郎左衛門同武左衛門所有地ト申立同村小田島善九郎持ノ切替畑ノ場所ハ更ニ無之ト主張シ又第十

一號證ノ畑五畝十五歩五厘ハ被告村ノ田原平左衛門開墾ノ分ヲ被
告ニ於テ今般ノ論外ナリト云ハ是又舟木山ヲ廣ク卸付タルノ實際
顯レノコトヲ恐レテナリ

第十一條

第四號證原被村雙方ヨリ安永度舊政府代官所へ差出シタル繪圖面
ハ實地測圖ニアラスト雖モ現ニ公證ナリ被告村ヨリ差出タル繪圖
ニヨレハ原告村トノ境界ハ赤黃色ニシテ銘々持ノ耕地ナリ又原告
村ノ扣繪圖ニハ被告村ノ境界ハ青色ノミニシテ舟木草山ナリ若シ
被告村ノ主張スル該論所ハ天和安永度高請一村限りノ地ナリトモ
ハ右繪圖面ニ觸レテ境界内ニ青色ノ草山ナキヲ得ス又原告村ノ扣
繪圖ニヨレハ實地相應ニシテ尤兩村ノ境界線ヲ知ルヘキ明瞭タル
公證ナリ外ニ被告申立ル合四十五筆ノ田畑ノ内ニハ前陳述ヲナシ

タル原告村ノ田畑入交リアリ故ニ被告一村限りノ高受地ナラハ右
ノ如ク入交リ地ノアルヘキ謂レ無シ又直ニ入會ノ地ナレハ檢地帳
割付ニ其譯記載有ルヘキニ其譯書ナシ就テハ四十五筆ノ地ハ被告
ニ於テ字ヲ操越タルコト明瞭ナリ

第十二條

實地測量ノ繪圖ナラテハ原被互ニ證トナシ難シト初審裁判ノ判文
ニアレトモ前條陳述シタル如クニ付公證ニヨリ實地檢査ヲ蒙ラハ
論所ハ自村ノ字舟木山ナルコト明瞭ナリ
一證據物ハ第一號ヨリ第十四號迄ナリ
前條ノ次第ナル故新潟裁判所ノ裁判ニ服シ難シ依テ終審ノ裁判ア
ラノコトヲ乞フ

被告 御前山村總代田原萬阿彌外二人答辨ノ要領

第一條

論所舟木山ト唱ル場所合反別六町四反四畝廿七步八厘ハ被告御前山村字ハ崎マゼロト稱スル場所ニテ天和度高受ノ地ナリ然ルニ原告ニ於テ字舟木山ハ被告村ノ最寄ナルヲ以テ入會卸山ニ入付被告村藤兵衛外三人ハ從前原告村ニ高受地有ルニ付右四人ノ名義ニ致シ置タルト其實被告御前山村中へ卸付シ故定山手米ヲ被告村役場ヨリ取立來ル旨申立ルト雖モ右ハ定見取米トシ藤兵衛外三名ヨリ原告村へ相拂ヒタルヲニテ定山手米トシ村中ヨリ相拂タルヲ一切之レ無シ證據物第十二號見取受取書ヲ以テ證據スルニ足ルヘシ

第二條

被告ノ證トスル見取米受取書ハ四十年前ニテ現在ノ請取書ニハ總テ山手米ト記載シ相渡シタルヲニ付差出方督責スレトモ實際ノ

發露セシヲ怖レ隱匿スル旨原告陳スルト雖モ是迄藤兵衛外三名ニ於テハ定見取米ヲ原告へ相拂來レトモ中古以來請取書ヲ取置カサルナリ然ルニ原告ニテ何ノ據ル處アリテ如此申立ルヤ了解シ難

第三條

被告ニ於テ見取米貳斗八升六合四勺ハ論外ナル舟木山ノ内字宮野ヒエ澤ノ田畑反別ニ割當テ卸受タル旨主張スレトモ右等ノ仕譯書無之往古ヨリ一手米ニ取立來リ舟木山場廣ク入會ニ卸付タルヲ明確ナリト原告陳スルト雖モ別冊證書中第十二號ノ通現ニ見取米ノ受取書之レアル上ハ仕譯書無之トテ入會山ニ卸付タルト見做スヘキ理由ナシ且地方ノ習慣トシテ一ヶ村へ卸付タル山手米ニ壹升以下ノ端ヲ計ルコトナシ然ルニ藤兵衛等カ相拂ヒシ定見取米ハ貳斗八升

六合四勺ト端米有之是亦山手米ニ非サルノ證ナリ

第四條

被告ニ於テ主張スル宮野ヒエ澤ノ田畑ノミ相定最初ヨリ藤兵衛外
三人ニ割當卸付タル者ナレハ其度毎ニ持主名前反別米割付等相違
スヘキ謂レ無之旨原告陳スルト雖モ右ノ内先前ノ書上ハ原告ノ指
揮ニ依リ全ク出先ニテ取調ヘシモノナレハ大ニ錯誤アリ依テ最末
ニ至リ初審新潟裁判所ニ捧ケタル取調ニハ相違セシトナシ又米割
付等相違ノ如キハ地味ノ厚薄ニ依リ異同ヲ生スル所以ナレハ何ノ
不都合モ有之間敷殊ニ藤兵衛外三人ニ於テ一東子ニ見取米ヲ相拂
ヒ未ク曾テ淹滞セシトモ之ナク原告モ亦某分云々ト區別セヌ唯一
東子ニ領収シ來ル上ハ割當等ノ義ハ假令相違致ストモ固ヨリ藤兵
衛外三人ノ便宜ニ任セタルモノナシハ今更原告ヨリ故障ヲ受ル理

由ナリ

第五條

貞享三年十二月二十五日付ノ田方賣渡ノケ所吉田宮野トハ原告ノ
即今ヒエ澤ト唱ル所ト同地ニシテ兩名ナル旨被告ニ於テ主張スレ
トモ右證文面ニ下名舟木山ノ内吉田ト記載アツテ宮野ヒエ澤ノ内
ト記載ナシ元來右ケ所該論所續キ新發知山ノ處ニ在ル旨原告陳ス
ルト雖モ明治九年四月二十三日論地見分ノ節舟木山ノ内下名吉田
ト唱フルケ所ハ無之旨ノ請書原告總代舟木治八郎ニ於テ差出シ置
ナカラ今般舟木山ノ内ナル新發知山ノ處ニ吉田アリトハ甚タ不都
合ノ言立ナリ假令吉田ノ字アリトスルモ右ハ論外ノ地ト爲サハル
ヲ得ス何トナレハ同所ニハ被告村方藤兵衛等ノ所有地絶テナケレ
ハナリ

第六條

右賣渡證文ノ貳升四合壹勺ハ藤兵衛外三人ノ外タル又四郎ヨリ三郎右衛門へ賣渡云々被告村役場ヨリ取立來リ又藤兵衛等へ割付卸付タルモノナレハ被告村ノ取調へタル反別持主米割付方等相違スヘキ謂レナキ旨原告陳スルト雖モ又四郎トハ藤兵衛外三人ノ中ナル新兵衛ノ祖先ナリ又一手米云々ハ被告村役場ニテモ與リ知ラサレナリ是全ク藤兵衛外三名等相互ニ簡便ヲ計リ各自ノ見取米ナ一束子ニ相拂ヒシトナリ又被告村ノ取調へタル反別米割付等ノ相違セル等ハ前條ニ答辨セシ如クナリ

第七條

該論所被告村へ卸付山手米ヲ請取來リ藤兵衛等ノ外數人舟木山ニ入會稼キ續キシハ論所内外ノ論ヲ俟スト原告陳スルト雖モ被告村

ニテハ山手米ヲ拂ヒ舟木山ニ入會ノ許諾ヲ受ケタルヲ無之原來被告村方ニモ草山有ルニ付山業ニ差支ハ之ナキ故何ソ多少ノ山手米ヲ拂ヒ入會稼ノ許諾ヲ受ルノ理アラシヤ又原告ニ於テハ該舟木山ノ内四度ニ四石五斗九升新高請ナシタリ被告村ニテハ現ニ新開田畑ノアルモ定卸山ナル故ニ高受セス是草山ノ定卸付ナルヲ判然タル旨原告陳スルト雖モ草山ノ定卸付ニ非サルヲハ前條答辨スルカ如クナリ

第八條

又被告ニ於テ論外ナル宮野ヒエ澤ノミテ藤兵衛外三人ニ於テ定受致シタル旨主張スレモ十二筆ノ田畑ハ該舟木山ノ内被告村ニテ新開致シタルニ付則地券取調ノ際脇書ニ從前山高ノ分ト記載シ現ニ新潟縣地券課へ差出置タリ是山手米タルヲ證明スルニ足レル旨原

告陳スルト雖モ地租改正ニ際シ原告村ニ於テ該地取調濟相成タル
 ニ付調印可致旨申來ルニ依リ藤兵衛等出張ノ上右帳等一見スルニ
 反別取調上ハ聊カ異議ナシ然レトモ名前違ヒ之アルニ付之ヲ改正
 シ尙第五筆目ノ脇書ニ從前山高ノ分ト記載アリ是レ如何ニモ不服
 ニ付調印ヲモサルナリ尤該地ハ天和三年檢地ノ節書上タル本高受
 ニ有之處爾來繩延ノ場所タルヲ以テ今般取調ノ上筆數ハ増加スル
 凡新開等ノ譯ニ無之且該帳簿ニ調印ノ際ニハ第五筆目ノ外ニ從前
 山高ノ分ノ記載アルコトナシ既ニ當時ノ寫書ヲ所持セリ

第九條

又右ケ所最初實地取調ノ際ハ被告村方田原六兵衛外二人立會ニテ
 藤兵衛等ノ外ナル田原八左衛門外六人ノ者案内シタル旨原告陳ス
 ト雖モ田原六兵衛等ニ於テハ右様ノ案内ヲ爲シタル覺無之又明治

八年十二月前項取調簿ニ調印ノ際田原方阿彌長男嘉重外一人立越
 帳簿ニ張紙セシナト申立タルハ前項ニモ答辨スルカ如ク名前違ヒ
 ヲ改正シ從前山高ノ分トノ記入アリシハ不服ニ付調印ヲモサルナ
 リ

第十條

該地三ヶ所嚮ニハ論所ニ有リト申立區別ヲ立テタルハ疎漏ノ儀ニ
 テ其實一ハ論外ニ在リニハ論内ニ在ル旨今般原告改テ陳スルカ如
 シ相違ナシ然レトモ甚以不都合ノ至リナラスヤ

第十一條

原告村ノ宇舟木山ト被告村ノ地境安永九年原被村ニリ舊政府代官
 所ニ差出セシ繪圖面ハ實地測量圖ニアラスト雖モ現ニ公證ナリト
 原告陳スル通私證ニハアラサレモ明細圖ニ非ス止々見取ノ粗繪圖

ナレハ村境ヲ確定スルノ證據ト爲スヘカラス又被告村ノ繪圖面ニ
依レハ原告村ノ境界ハ赤黃色ニシテ銘々持ノ耕地ナリ又原告村ノ
扣繪圖被告村ノ境界青色ノミニシテ舟本草山ナリト原告陳スルト雖
モ唯其青色ナルヲ以テ舟本草山ト見認ムルヲ得ス又被告ノ主張ス
ル該論所天和安永度高受一村限りノ地ナリトモハ右繪圖面ニ觸レ
テ境界内ニ青色ノ草山ナキヲ得スト原告陳スルト雖モ該繪圖面ハ
耕地ヲ主トシテ製シタル粗繪圖ナルヘケレハ其青色ナキヲ以テ草
山ナキノ證トスルニ足ラサルナリ

第十二條

實地測量ノ繪圖ナラテハ原被互ニ證トナシ難キ云々實地檢査ヲ蒙
ラハ論所ハ自村ノ字舟木山タルヲ判然タル旨原告陳スルト雖モ原
告記セシヤ嚮ニ實地檢分ノ際原告總代齋藤庄三郎齋藤善平等實地

案内ヲモ爲シ得ス派出官員ノ詰問ヲ受何トモ申譯ナキ旨受書ヲ差
出シタルニ何ノ據ル所ロアリテ云爾ヤ被告ノ更ニ了解シ得サル所
ナリ而シテ被告所持スル文久二年舊幕府勘定所へ差出シタル繪圖
面ハ頗ル精密ニシテ實地ニ適當シ字付等ノ狂ヒモ無之且天和安永
兩度ノ檢地帳面即四十五筆ノ高受地アルヲ以テ觀レハ論所ハ原告村
ノ地内ニ非ス被告村ノ地株タルヲ自ラ昭々手トシテ見ルヘキモノアリ
一證據物ハ第一號ヨリ第十號迄ナリ
前條々ノ次第ナルニ付公正ノ裁判アランヲ乞フ

判文

第一條

原告ニ於テ論地合反別七町六反貳畝貳拾九步六厘ハ原告上野村所
屬草山ノ内字舟木山ニテ往古ヨリ被告へ定御ニナシタルモノナレ

ハ論地ハ原告村ノ所屬地ナル旨種々申立レモ原告證トスル第一號
 天和三年檢地帳ニ草山山高四斗五升貳合トアリ第七號甲貞享二年
 割付ニ高四斗五升貳合草山高トアリ第七號乙貞享四年割付ニ高四
 斗五升貳合山高トアルモ論地ハ田畑切替畑草生荒地山等ニテ第一
 號天和三年檢地帳第七號文化七年檢地帳證草山高ノ内ナル證ノ見
 ルヘキナシ又第四號安永九年ノ繪圖面ハ一村限リノ見取圖ニシテ
 原被兩村ノ境界ヲ定ムル證ニハ不相立又第五號安政二年ノ取立帳
 ニ山手米貳斗八升六合四勺トアルモ論地ハ被告ヘ定御シ地ニナシ
 タルノ證無之殊ニ第五號證ハ原告ノ控帳ニテ納主ハ藤兵衛新兵衛
 三郎左衛門トアリ被告第一號受領證ニ米貳斗八升六合四勺見取藤
 兵衛伊藤兵衛新兵衛三郎兵衛トアレハ原告第五號證安政二年年貢
 取立帳ハ被告第一號證ニ適當シ藤兵衛外三人ヨリ相納クル見取米

ノ證ニシテ論地山手米ノ證トハ見認カタシ又第六號貞享三年田地
 賣渡證ニ田三拾束菊舟木山ノ内吉田トアリ上野村庄屋佐左衛門連
 印アルモ右六號證ノ田三拾束菊ノ地ハ被告ニ於テ被告第八號論外
 田畑四反九畝廿三步五厘ノ内ナリト申立原告第六號證ノ地ハ論地
 内ナルノ證ナシ又第八號第九號明治八年地券書上帳ノ拔萃ハ何レ
 モ原告村限リ書上タルモノニシテ論地ノ證ニハ不相立又第三號地
 引帳證ニ從前山高ノ分トアルハ被告ニ於テ該證調印ノ時田廿貳步
 六厘ノ脇ニ從前山高ノ分トアルヲ以調印ヲ拒ミ其他從前山高ノ文
 字ハ記載無之右第三號證ノ地ハ原告第十二號天和三年檢地帳ニ記
 載有之藤兵衛外二人ノ名受地ナリト申立原告第三號證ハ地券書上
 帳ノ拔萃ニシテ本書ニアラサレハ之ヲ定ムルニ由ナシト雖モ果シ
 テ原告第三號證ニ從前山高ノ分トアルモ之レヲ以論地ハ原告ノ定

御地ナリトハ見認カタシ又原告第十號甲享保九年檢地帳第十號乙
 安永三年檢地帳第十號丙寛政五年檢地帳第十號丁文化七年檢地帳
 ニ字舟木山トアリ原告村ノ者共名受地アルモ第十號ノ地ハ論外ノ
 地ニシテ第十號證ハ原告上野村ニ字舟木山ト云フ地アルヲ證スル
 ニ止ルモノニテ論地所屬ノ證ニハ相立ス第十一號證ニ字舟木山田
 貳畝六步六厘第十三號證ニ字舟木山畑五畝十五步五厘被告村ノ者
 名受地アルモ右十一號十三號ノ地ハ論地内ナリトスルノ證ナク又
 第十四號實地測量繪圖ハ原告限ノ調製シタルモノニテ該繪圖面ノ
 論地境界線ハ其由ルヘキ證ナケレハ論地境界ノ證ニハ不相立如斯
 論地ノ境界判然セス論地ハ原告村所屬ナルノ證ナケレハ論地反別
 七町六反二畝九步六厘ハ上野村所屬地ナリトノ原告申分ハ難及採用

第二條

被告ニ於テ論地合反別六町四反四畝廿七步八厘ハ被告御前山村高
 内字ハ崎マゼロニテ天和度高受ケノ地ナル旨申立レモ被告第三
 號天和三年檢地帳ニ字ハ崎マゼロニテ畑四十四筆此反別三反九
 畝二十二步ノ高受アリ第四號安永三年檢地帳ニ字マゼロニテ畑一
 筆此反別廿壹步ノ高受アリ第五號第六號天明元年割付ニ畑田成ノ
 明記アルモ第三號第四號檢地帳ニ記載有之畑反別十三步ハ論地田
 畑荒地草生柴生杉立雜木立等ニテ合反別六町四反四畝二十七步八
 厘ニ當ル證ノ見ルヘキナリ又第七號文久二年ノ繪圖面ニ字マゼロ
 ハ崎ノ明記アリ反別モ第三號第四號檢地帳ノ反別ニ適當スルモ
 第七號ノ繪圖面ハ被告限リニ成リ立タルモノニテ測量圖ニモア
 ラサレハ該圖面ヲ以論地ハ字ハ崎マゼロナリト定ムル能ハス又
 第十號實地測量繪圖ハ又被告限リ調製シタルモノニテ該繪圖面ノ

境界線ハ其由ルヘキノ證ナケレハ論地境界ノ證ニハ不相立如斯論地ノ境界判然セス論地ハ被告村高内ナルノ確證ナケレハ被告ニ於テ論地反別六町四反四畝二十七步八厘ハ御前山村高内ノ地ナリトノ被告申分ハ難及採用

第三條

論地原告ニ於テハ字舟木山反別七町六反二畝二十九步六厘ナリト云ヒ被告ニ於テハ字ハ崎マゼロ反別六町四反四畝二十七步八厘ナリト云ヒ論地字反別共原被申立符合セス前條々ノ通原被共論地境界ノ證據無之ニ付論地ノ所屬ヲ定ムルニ由ナシ因テ論地ハ地方官ノ處分ヲ受クヘキモノト可相心得事 明治十一年一月廿九日

大審院ニ於テ

原告 御前山村總代尾木漸上告ノ要領

第一條

原告御前山村ヨリ東京上等裁判所へ差出タル第三號天和三年檢地帳第四號安永三年檢地帳第五號天明元年割付第七號文久二年ノ繪圖等ニ依レハ論地ハ御前山村ノ内字ハ崎マゼロタルノ證アリ右繪圖ニ被告上野村ノ調印ハ之ナシト雖モ舊政府勘定所ヨリ官員派出ノ際調製シタル公正ノ圖ニシテ固ヨリ評論以前ノモノナルヲ以證據ト爲スヲ得ヘキモノナリ殊ニ該所ハ從前ヨリ御前山村ニ於テ耕作進退仕來リ會テ他ヨリ支障セラレタル事ナシ被告上野村ニ於テ論地ハ定御山ナリト云ト雖モ其證左ナク果シテ定御山ナラハ山手米ヲモ取立ヘキニ其儀ナクシテ御前山村カ耕作進退仕來ルヲ傍觀スルノ謂ナシ然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ右等ノ條理ヲ推究セス御前山村高内ノ地ナリトノ申分難及採用ト判決セラレタル

ハ不法ノ裁判ト思考ス

第二條

凡民事ノ訴訟タルヤ苟モ證據ノ端緒アラハ其條理ヲ推究シテ曲直ノ裁判ヲ與フルカ又ハ審問上證據絶テナキモノト見認ムルトキハ訴狀却下ニ止マルヘク何ソ將來ノ方向ヲ指揮スルノ理アラシヤ然ルヲ東京上等裁判所ニ於テハ論地經界ノ證無之ト認メナカラ地方官ノ處分ヲ受クヘシト將來ノ方向ヲ指揮サレタルハ不法ノ裁判ト思考ス

前條ノ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀アラソクナ乞フ

被告 上野村總代石津與七郎答辨ノ要領

原告御前山ニ於テハ 第三號 天和三年 第四號 安永三年ノ檢地帳ニ字ハ、崎マセロニ於テ田畑四反拾三步 此内中畑壹畝拾歩 下畑二反五畝拾歩 竿受アルト

御前山村限リ調製シタル 第七號 文久二年ノ繪圖トナ以論所田畑三町三反八畝二步壹厘其他草生柴生杉立雜木荒地等三町六畝二十五步七厘都合六町四反四畝廿七步八厘ハ都テ原告村ノ地内ナリト申立レトモ論地ハ嶮岨ノ山地ニシテ中畑下畑ノ高受アルヘキ地勢ニ非ス殊ニ原告村ノ位置ハ高地ニナリ被告村ノ位置ハ低地ナリ而シテ兩村ノ境界ハ山ノ端口境ニシテ決シテ紛亂スル事ナキヲ論所ニ限リ原告村ノ地所カ低地ニアルヘキ筈ナシ

一原告證據トスル 第七號 文久二年ノ繪圖ハ舊政府ニ於テ耕地調ノ節村々ノ者高田出張先ニ於テ調製シタルモノニテ實地ニヨリ認メタルモノニ非ス殊ニ領分違ヒナル原告村カ自己ノ繪圖ナルヲ以テ經界ノ證據ニハ爲スヲ得サルモノナリ

一被告上野村ニ於テ論所七町六反貳畝廿九步六厘(原告御前山村ニテハ六町四反四

畝廿七步(八厘ト云)ハ上野村ノ地内ナリト主張シタル證據書類ハ左ノ如シ

一天和三年檢地帳

第一號 宇舟木トアリ

一享保九年檢地帳

甲第十號 田畑合計八反四畝廿三步此
高四石五斗八升八合トアリ

一安永三年檢地帳

乙第十號 同斷

一寛政五年檢地帳

丙第十號 同斷

一文化七年檢地帳

丁第十號 同斷

右ノ通り竿受地アリ而シテ論所ハ舟木山接續ノ地ナルヲ以舟木山ノ地先ナル事ヲ知ルヘシ

一被告ヨリ證據トシテ差出シタル 第四號 安永九年ノ繪圖ハ原被雙方ヨリ當時ノ代官所へ差出シタル扣ヘナリ其頃ハ被告上野村作左衛門原告御前山村其他十一箇村ノ總代ナリシニヨリ假令御前山村役人而已ノ調印トイヘトモ被告村ノ連印アルト同一ノ力ヲ有スヘシ

此圖面ニ依レハ原告ノ田畑ハ高地ニ在リテ赤色ナリ被告ノ舟木山ハ草山ニシテ青色ナリ此圖面ト前文ニ記載シタル都合五冊ノ檢地帳トヲ參照スレハ論地ハ被告舟木山ノ地先キナル事明瞭ナリ

一原告ハ被告村ノ内字宮野ヒエ澤ニ於テ原告村田原藤兵衛外三人ノ定受地アリト雖モ右ハ素ヨリ今般ノ論所ニ非ス論所ハ決シテ定受ニ非スシテ原告村ノ地内ナリト主張スレトモ若シ申立ノ如クナラハ反別及ヒ名前代リ定米ノ高ニ増減アルヘキ理由ナシ是レ原告カ偽言ノ證ナリ

一原告ニ於テ被告 第六號 田方賣渡證書ニ記載シタル場所ハ宮野ヒエ澤ト同一ノ地ニシテ字吉田ニ稱スト云ト雖モ吉田ト稱スル場所ハ舟木山ノ内字新發知山ノ近傍往古茅生ナリシニヨリ吉田ト稱シ

來ルナリ又宮野ヒエ澤ハ貞享ノ頃田畑ニ開墾ノナルヘキ土地柄ニ
 アラス依テ原告カ宮野ヒエ澤ト稱スル場所ハ被告 第六號 貞享三年
 寅十二月二十五日附ノ田方賣渡證書ニアル字吉田ニ適當セス
 一論所ハ被告上野村ヨリ原告御前山村ヘ定卸シヨ爲シタル場所ニ
 相違ナシト雖モ小作證文ヲ取置カサルハ所ノ習慣ニヨレルナリ又
 定受人ハ田原藤兵衛外三人ノ名前ナリト雖モ其實ハ御前山一村ヘ
 御シ付ケタルナリ又御前山村ニテ開墾ノ上田畑トナシタルヲ被告
 村ヨリ故障ヲ爲サ、リシハ定卸地ナルカ故ナリ
 一被告 第八號 地引帳ハ明治八年十月縣廳ヨリ地券調官員派出ノ
 節至急 第十一號 要セシニヨリ原被告立會調印シテ下々帳ノ儘差出シタルモ
 ノナリ此帳面ニ原告村ノ者ノ持地ハ從前山高ノ分トアリ是レ原告
 カ本高受ノ地ニ非サルヲ認諾シタルノ證據ナリ然ルニ原告ニ於テ

今更右ノ高地ヲ指シ天和三年ノ檢地受ナリト申立ルハ不都合ナリ
 殊ニ原告カ天和ノ竿受地ハ田四筆ナルヲ其地飛離ノ个所等ニテ十
 三筆ノ田畑アルヘキ謂レナシ
 一右十三筆ノ小作米ハ 第五號 年貢取立帳ニ記スル定米貳斗八升六
 合四勺ノ内ニ籠リ在テ別段小作米ハ取立テス
 一被告 第八號 地引帳ノ五筆ハ原告一村限りノ高受地ナリト申立レ
 共現在被告上野村次郎作外三名ノ所有地入交リアリ又 第十三號
 論地調帳ニ畑五畝十五步五厘ハ定卸シ山ノ内原告村田原平左衛
 門ノ開墾地アリ是又別段小作米ヲ取立スシテ定卸米貳斗八升六
 合四勺ノ内ニ籠レリ素ヨリ論地ハ定卸入會稼ニ御シ付タルモノ
 ナリ

第二條

原告ニ於テハ東京上等裁判所ハ將來ノ方向ヲ指揮セラレタルモノ
ニテ不法ナル裁判ト云ト雖ヒ決シテ然ラス其ノ故ハ明治八年八月
新潟裁判所ニ於テ原被並區長立會實地取調ノ上詳細ニ可申立ト言
渡サレタルニ立會ヲ爲サスシテ自儘ニ製シタル圖面ヲ以テ經界ヲ
立ント主張スルハ不條理ナリ實地ニ臨ミ經界ヲ定ムルハ地方官ノ
當務ナルヘケレハ東京上等裁判所カ地方官ノ處分ヲ受ケヘシト言
渡サレタルハ當然ノ裁判ト思考ス

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一 原告御前山村ニ於テ天和三年安永三年ノ檢地帳及ヒ天明元
年ノ割付書文久二年ノ給圖等ニ依リ論所六町四反四畝廿七步八
厘御前山村高地字ハ、崎マセロタルノ證據ト爲シタルニ御前山
村高内ノ地ナリトノ申分難及採用ト言渡シタルハ不法ノ裁判ナ

○テ

リトノ事

第二 雙方共無證據ノ訴訟ト看認ムル時ハ訴狀却下シテ然ルヘキ
ニ地方官ノ處分ヲ受ケヘシト將來ノ方向ヲ指揮シタルハ不法ノ
裁判ナリトノ事

辨明

第一條

東京上等裁判所ニ於テ控訴ノ被告タリシ御前山村カ證據トシタル
檢地帳割付書繪圖面等ヲ採用セス論地六町四反四畝廿七步八厘ハ
御前山村高内タルノ申分採用シカタシト言渡セシハ不法ナリト上
告スレトモ右ハ判決ノ主旨ニ適合セサル上告ナリトス如何トナレ
ハ御前山村カ證據トスル天和三年檢地帳ニハ字ハ、崎マセロニ於
テ藤兵衛外二人ノ名受畑四十四筆此反別三反九畝十二步ニ止リ安

永三年ノ檢地帳ニハ畑一筆廿一步ノ高入リアルニ止リ又天明元年
割付書ニ畑田成ノ明記アルモ論所田畑草生柴生杉立雜木立等合計
六町四反四畝廿七步八厘御前山村高内ノ地ナリト云ヘルニ適當セ
ス又文久二年ノ繪圖ハ舊幕府勘定所ニ差出シタル扣ヘナリト言ト
雖モ果シ然ルヤ否認ムルニ由ナシ依テ御前山村ノ證據ハ論所ノ町
步ニ適當セストノ主旨ナルヲ上告人ハ右ノ町步ニ當ルヘキ證明ヲ
爲サスシテ御前山村ノ證據ヲ採用セサリシトハ判決ノ主旨ニ反シ
タル上告ナリトス

第二條

御前山村ニ於テ反別合計六町四反四畝廿七步八厘上野村ニ於テ反
別合計七町六反貳畝廿九步六厘ト申立ル論所ハ御前山村部内ニ屬
スルヤ將ヲ上野村部内ニ屬スルヤ雙方ヨリ差出シタル證據書類ニ

依リテハ兩村ノ經界ヲ定ムルニ由ナシ然ル上ハ地方官ノ處分ヲ可
受事柄ナルニ因リ東京上等裁判所カ地方官ノ處分ヲ可受ト言渡シ
タルハ本訴ニ適合シタル裁判ナリトス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ明治十一年三月三十日東京上等裁判所ニ於テ宣
告シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第百六拾九號

○約定違約金催促一件上告ノ判文明治十一年五月四日上告
明治十一年十月九日申渡

原告

東京第五大區二小區神

田元久右衛門町二丁目

十番地平民

古川嘉平治

被告

同第二大區七小區森元
町三丁目壹番地華族

水野忠愛

東京上等裁判所ノ審判

原告 古川嘉平治控訴ノ要領 明治十一年一月廿六日

明治九年二月中被告水野忠愛負債償却ノ爲メ商法ノ目的ヲ立金融
致シ度就テハ華族ノ名義ニテハ不都合有之ニ付外國人及ヒ遠國取
引トモ總テ原告ノ名義ヲ以テ商用致シ吳ノ度旨頼談ニ付則チ左ノ
假約定ヲナシタリ

甲壹號

約定證

今般示談ノ上商法取結候ニ付外國人并遠國取引總テ貴殿一名ノ

名目ニテ約定可被下候對談御頼申候處御承諾相成候ニ付來ル三
月四日本定約取極可申約右日限本約取結ノ儀違約致シ候歟又ハ
拙者共ニ於テ如何様不慮之儀出來候共貴殿へ聊迷惑相掛ケ申間
敷候萬一前書約定ノ儀ニ付致違約候節者爲違約償金二千五百圓
宛兩家ヨリ差出シ相渡可申候依之雙方異論無之候約定證如件

千駄ヶ谷壹丁目壹番

地華族

本人

明治九年二月廿三日

水野忠愛印

右家令

證人

鈴木重純印

松谷嘉平治殿

外三名略ス

於是横濱居留ノ外國人へ引合漁船並ニ物品買入ノ約ヲ成シ手附金
差入レ其他府下商人奥州越後等ノ商人ニ引合夫々商法取結ヒ既ニ
右甲一號證ノ本約定締結スヘキ期日ニ及ヒタル處被告ニ於テ更ニ
本證不差出彼是遷延中手附金及ヒ諸入費等許多ノ損害ヲ受ケタリ
依テ明治九年十一月中東京巴町區裁判所へ勸解ノ出願ニ及ヒ示談
ノ上左ノ日延書ヲ差出シタリ

濟方延期對談

片書零

原告人

松谷嘉平治

同

水野忠愛代

被告人

鈴木重純

願高

一違約金貳千五百圓也

右者本日御糺之上濟方約定仕候ニ付本月三十日迄濟方示談仕候
間右同日マテ御猶豫被成下置度此段原被連印ヲ以テ奉願上候以
上

右

原告人

明治九年十一月十七日

松谷嘉平治印

片書略

被告人

鈴木重純印

東京巴町區裁判所長

三級判事補行徳元穆殿

如此一旦償却ノ對談ヲナシ尙違約セシコ付遂ニ初審ノ審理ヲ經シ
 ニ損害ノ證據アラサレハ該償金ハ原因ナキコ付無効ノ契約ナル旨
 裁決セラレタレトモ該件損害セシ證據ノ有無ヲ以テ償金差出スヘ
 キ理由ナケレハ被告ニ於テ豈勸解ノ對談書ヲ差出スヘキ理アラン
 ヤ且ツ該契約ノ大意ハ商法上ノ損益ニ關セス唯本約取結ハサレハ
 證文明文ノ金額ヲ差出スヘキ事コアリ又證據ノ如キハ嚮ニ物品買
 入ノ約定ヲナシタルモ破約ノ時其證書等ハ差戻シタルハ該證據ア
 ルヘキ等ナシ假令證據アルモ被告ノ印影アラサレハ該件ニ關セサ

ルモノト看做サル、モ亦陳辨スルコ能ハサルヘシ依テ被告水野忠
 愛ヨリ該違約金一時ニ皆済スルノ裁判アランコト乞フ

被告 水野忠愛代人白井政夫答辨ノ要領

原告第壹號證ハ被告ヨリ差入レ本約定ノ儀ヲ違約シタルハ相違ナ
 キニ付之レカ爲メ眞ノ損害アレハ償フヘクナレトモ更ニ其損害證
 左ナキニ於テハ所謂原因ナキモノニ付明文ノ償金可差出義務ハア
 ラサルナリ彼ノ勸解中ノ日延書ノ如キハ當時ノ代人ノ錯誤ニシテ
 且ツ前論ノ如ク原因ナキ償金ナレハ其日延書ハ固ヨリ効力ナキモ
 ノト思考ス

判文

原告請求スル違約金貳千五百圓ハ原告第一號契約書ノ明記ニノミ
 因リタルハ原告控訴狀第五條ニ該約定ノ大意ハ商法上ノ損益ニ關

スル事ニアラス明治九年三月四日約定取結カ結ハサルニ在リトアルヲ以テ證スルコ足レリ又原告第二號證ハ東京巴町區裁判所へ差出シタル日延願迄ニ止ルモノナリ而シテ原告第一號契約ヲ被告カ違約セシ爲メ原告損害ヲ請ケタルノ證非ラサレハ原告請求スル違約金ハ其原因ナキ違約金ナルヲ以テ原告申分難及採用候事明治十年三月六日

大審院ニ於テ

原告 古川嘉平治上告ノ要領

第一條

原告甲第一號證ニ記載セル違約償金ノ契約ハ明治九年三月四日ヲ限リ本條約ヲ取結ハサルトキハ雙方ノ損益ニ拘ハラヌ其償金二千五百圓ト確定シ其原因ハ二十通ノ證(甲第一號ヨリ)ヲ以テ明ナリ然

ラハ則チ之レカ違約ヲナシタル上ハ被告ニ於テ之レヲ出スヘキノ義務ヲ生シ原告ニ於テ之レヲ請取ヘキノ權利ヲ生シタルトハ言テ竣タサル筋合ナルニ東京上等裁判所ニ於テ原因ナキ無効ノ契約ナリト認定セラレシハ不法ナリト思考ス

第二條

前條ノ如ク原告ニ於テ之レヲ請求スルノ權利アルハ勿論實際ニ於テモ右違約ノ爲ニ損害ヲ受タルコトハ甲第一號ヨリ第二十號迄ノ證書ニテ判然ナリ故ニ之レヲ東京上等裁判所へ提供シ既ニ甲第一號ヨリ第七號迄ノ證書ニハ初審裁判官ノ捺印モ有之ニ單ニ甲第一號證及ヒ巴町區裁判所へ差出シタル濟方延期證書ノミヨ對シ裁判ヲ與ヘラレ甲第二號以下ノ證書ニ於テハ何等ノ裁判モナク又捺印ヲモ爲サズシテ却下セラレタルハ不法ナリト思考ス

第三條

濟方延期對談書ハ勸解ヲ請ヒシ節巴町區裁判所へ差出シタル延期願書ナリト雖モ被告ニ於テモ之レニ調印スルヲ見レハ其濟方即チ償金二千五百圓ヲ出スヘキ義務アルヲ認許セルヲ知ルヘキナリ然ラハ則チ確乎タル證據トナルヘキ筋ナルヲ東京上等裁判所ニ於テ日延願迄ニ止ルモノナリトノ裁判ヲ下サレタルハ不法ナリト思考ス依テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレンコトヲ乞フ

辨明

原告ヨリ請求スル違約償金ハ原告ノ損害ヲ受ケタルト否サルトニ關セズ被告ニ於テ之レヲ償フヘキ契約ナルヤ否ヤヲ推究スルハ本件辨明ノ主要ナルヲ以テ之レヲ明治九年二月二十三日ノ約定證書ニ徴スルニ貴殿へ聊カ迷惑相掛申問敷候萬一前書約定ノ儀ニ付致

違約候節ハ爲違約償金二千五百圓差出シ相渡シ可申ノ文詞アリテ其文意ハ被告ニ於テ違約シテ原告ニ迷惑ヲ掛ケタルトキハ之レヲ償フヘキ旨趣ナルヲ明瞭ナレハ原告ノ損害ヲ受ケタル時ニ限り被告ニ於テ之レヲ償フヘキ契約ニテ原告ノ損害ヲ受ケタルト否サルトニ關セズ辨償スヘキ契約ニ非ストス何トナレハ原告ニ於テ損害アレハ其迷惑トナルニ由リ辨償スヘキモノナントモ若シ損害ナクレハ其迷惑トナラサルニ由リ辨償スヘキ理ナケレハナリ且ツ夫レ償金ノ性質タルヤ甲者ノ所爲ニ因リ乙者ニ損害ヲ與ヘタル時甲者ヨリ其損害ヲ償フ爲メ乙者ニ拂フヘキモノナレハ若シ乙者ニ於テ損害ヲ受ケサルトキハ乙者ハ甲者ニ對シ其償ヲ求ムル權利ナシトス何トナレハ其償ヲ求ムル原因タルヘキ損害ナケレハナリ故ニ本件ノ違約償金ハ原告ニ於テ實際ノ損害ヲ受ケサル上ハ被告ニ對シ

請求スル權利ナキモノトス右ノ譯合ナルニ由リ被告ハ東京巴町區
裁判所勸解ノ席ニ於テ原告ト濟方ノ對談ヲ爲シ延期對談書ヲ差出
シタリト雖モ猶辨償ノ義務ヲ負ハサルモノトス其故如何トナレハ
原告カ償ヲ求ムル原因タルヘキ損害ナキ上ハ被告ヨリ其償ヲ爲ス
ヘキ爲メ原告ト爲シタル對談モ亦原因ナキモノトナレハナリ是レ
則チ東京上等裁判所ニ於テ原因ナキ違約金ナリトノ裁判ヲ爲シタ
ル所以ナリ

但シ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ甲第二號ヨリ甲第二十號迄ノ
書類ニ對シ裁判ヲ爲サ、リシ旨申立ルト雖モ原告カ此書類ヲ同
裁判所ニ差出シタル證ナキ而已ナラス證憑ノ如キハ嚮ニ物品買
入ノ約定ヲ爲シタルモ破約ノ時其證書等ハ差戻シタルハ該證憑
アルヘキ筈ナキ旨東京上等裁判所ニ申立タルニ依レハ原告カ此

等ノ書類ヲ同裁判所ニ差出シ實際ノ損害ヲ證明セザリシト却テ
明白ナル上ハ此書類ニ關シテハ未ダ同裁判所終審ノ審判ヲ經サ
ルモノナルニ由リ辨明ヲ與ヘス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ
モノトス

第七拾號

○年賦金催促上告ノ判文明治十一年三月十九日上告

原告

大坂府攝津國東成郡大

坂瓦町平民坂部徳太郎

代人

三重縣伊勢國桑名郡桑

名寺町平

堀田久七

被告

三重縣伊勢國桑名郡桑

名寺町平民

岩田彦五郎

東京上等裁判所ノ判文

原告岩田彦五郎控訴ノ要領左ノ如シ

第一 初審裁判書第一條中ニ吉右衛門口入ニテ買入タル米ハ金六ノ賍ニ係ルヲ以テ追徴申渡サレ云々トアレヒ明治三年三月中吉右衛門ヨリ送來リタル米三百九十俵ハ第四號寫ノ通り今宿村多藏外六人ヨリ吉右衛門買入レ積送リ金六ヨリ買入レタル米ニアラサレハ金六ノ賍ニ係ラサルハ明瞭ナリ

本文第四號證ノ寫左ノ如シ

明治三年三月八日

今宿村

一米六拾俵

多

藏

貳俵六分七厘替

代金貳百貳拾四兩ト銀四拾三匁壹分四厘

同九日

澤渡リ村

一米四拾俵

丈

作

貳俵六分五厘替

代金百五拾兩ト銀五拾六匁五分四厘

同九日

今宿村

一同貳拾俵

武

平

貳俵六分五厘替

代金七拾五兩三步、銀五匁九分四厘

同十日

神戶村

一同五拾五匁

孫兵衛

貳匁六分替

代金貳百拾壹兩貳步、銀貳匁壹分

同

今宿村

一同拾三匁

多藏

貳匁六分替

代金四拾九兩貳步、銀三匁八分九厘

同廿一日

直江村

一同百匁

源次郎

貳匁六分替

代金三百八拾四兩貳步、銀六匁六分八厘

同晦日

三增村

一同貳拾四匁

助左衛門

貳匁七分替

代金八拾八兩三步、銀八匁貳分九厘

同四月二日

今宿村

一同五拾匁

多藏

貳匁六分五厘替

代金百八拾八兩貳步、銀九匁三分九厘

同四月五日

神戶村

一同九拾五匁

孫兵衛

貳匁六分五厘替

代金三百五拾八兩、銀貳拾九匁四分五厘

合米四百五拾七俵

代金千七百五拾壹兩貳步、銀四分貳厘

前書ノ人名ヨリ米四百五拾七俵買入其内三百九拾俵岩田彦五郎方へ積送り後日ニ賣拂候處聊相違無之段吉右衛門申答候又追徴申渡サレタルニモアラスシテ米代金元不正有之ニ付吉右衛門償フ可キ處同人家出行衛不知ニ付償ヒ致スヘキ旨理解アリシ迄ナリ故ニ證文ニモ其義記載アリ加フルニ大坂府へ喚出サレタルハ明治四年正月ナレハ新律綱領ヲ設ケラレシ後ニシテ正贓已ニ費用スル者ハ追徴スルコト勿レトノ律條モ有之コトニ付假令吉右衛門ヨリ送り來リシ米金六ノ贓ナルモ既ニ吉右衛門於テ夫々へ賣拂ヒ正贓現在セサレハ追徴申渡アルヘキ筈ナシ況ンヤ吉右衛門ハ數年來ノ

米商ニシテ原告トノ取引ハ公商公買ノ商業ナルヲヤ

第二初審裁判書第二條中ニ吉右衛門へ義務ヲ移ス可キノ契約ニ非ルハ瞭然タリ云々トアレヒ吉右衛門於テハ明治三年十一月中紀伊國屋正三郎代長十郎へ金百兩餘相渡シ金六關係ノ義ハ相濟タルモノナレハ正三郎へ對シ盡スヘキノ義務無之シテ年賦證書ノ成立ハ明治三年三月中美濃國安八郡今宿村吉右衛門ヨリ米三百九拾俵送來リ當時相場不引合ニ付原告ヨリ金千百五兩立替遣シ第五號寫ノ通り明治三年七月四日ヨリ明治三年七月二十五日迄ノ間ニ於テ吉右衛門ヨリ他へ賣拂ヒ原告ノ立替金千百五兩受取タル處

本文第五號證ノ寫左ノ如シ

吉右衛門ヨリ彦五郎方へ積送後日賣拂タル人名ノ寫

一米五拾俵也

明治三年三月十三日受取

一同百俵也

同日受取

一同五拾俵也

同年四月三日

一同三拾五俵也

受取 同年四月十一日

一同百五拾五俵也

受取 同年四月十四日

〆三百九拾俵也

右桐山吉右衛門罷越左ノ人名へ賣拂申候

米百俵

米七拾七俵

右明治三年七月四日同地米問屋下里勘右衛門へ賣拂申候

米拾俵也

右同年七月十二日同地桑名郡獵師町山本作右衛門へ賣拂申候

米三拾五俵也

右同年七月十三日右同郡同村水谷嘉助へ賣拂申候

米六拾八俵也

右同年七月廿二日朝明郡富田一色村小川半四郎へ賣拂申候

米百俵也

右同年七月廿五日桑名米問屋水谷吉兵衛へ賣拂申候

合米三百九拾俵也

明治四年正月大坂府へ喚出サレ明治三年中吉右衛門ヨリ送來ル米

ハ紀伊國屋正三郎雇人金六ト吉右衛門トノ間ニ不正アルヲ以テ吉

右衛門ヨリ可償處行衛不知ヨリ一時代償致スヘシ追テ吉右衛門相

知レ次第事實糺問ノ上何分ノ處分可相成段申聞ラレタリ然レモ原

告ト吉右衛門ト年來米穀賣買仕來リタレモ不正等曾テ無之因テ吉

右衛門へ尋問ノ上償フヘキモノナラハ速ニ償フヘキ間吉右衛門尋

中猶豫アリタシト願ヒシカトモ採用ナク強テ拒ムキハ拘留致スヘキトノ嚴譴ニ恐縮シ正三郎死跡をらへ示談ヲ遂ケ金百圓ト今請求スル年賦借用證文相渡シ歸國及ヒ而シテ舊桑名藩へ代償免カルヘキ義ヲ歎願セシニ同藩ヨリ舊民部省へ上申ノ上償フニ及ハサルトノ指令ヲ受ケ安心セリ其後吉右衛門モ立歸リタルニ付面會及ヒ正不正ヲ尋シニ該米ハ金六ニ毫モ關係無之旨和答へ吉右衛門ト取引セシ人名モ判然セリ斯ノ如キ次第ニテ吉右衛門ト正三郎トノ取引ハ金百圓餘ニテ相濟タレハ原告カ差入タル證書ハ原因無之モノタレハ原告於テ償却ノ義務ナキハ勿論吉右衛門於テモ其義務無之モノナリ

第三 被告所持スル讓受ケ證文ノ年度ハ真正ナリト認メ難シ何トナレハ明治五年八月年賦證文差戻ノ義ヲ談判致スヘキ爲メ大坂表

へ立越タルニ紀伊國屋ヨリ外務省へ上納致スヘキ金アリテ此爲メ明治四年四月中同家身代限ト相成リとら義ハ除籍セラレ應答ナスヘキモノ無之止ヲ得ス立歸リタルニ明治五年十月十五日付書狀ヲとら代判長兵衛ヨリ遣シ年賦金ノ催促致スニ付償却ノ義務無之旨和答へ置キ尙明治八年二月大坂へ立越シとらへ面會シテ證書差戻方申入タル處同所平野町一丁目野村順次郎へ談シ吳レトノコニ付同人へ掛合ヒタルニ身代限ニ付外務省ヨリ預リタル證書數十本有之其内ニ原告カ差入タル年賦證文モアレヒ伺ノ上ニ無之テハ何トモ扱方無之ニ付退テ伺ノ上通知致スヘキトノ答ヲ聞キ立歸リタルナレハ明治五年五月三十日付ヲ以テ讓リ渡シアルヘキ筈ナシ是レ明治九年七月第九十九號布告ニ抵觸スルヲ以テ作爲セシモノナル

第四 前文ノ如キ次第ナレハ償却ノ義務無之旨陳述ス

被告 坂部徳太郎答辨ノ要領左ノ如シ

第一 紀伊國屋正三郎雇人金六於テ米若干今宿村吉右衛門ノ口入ヲ以テ原告ヘ賣却致シ該米ハ不正物ナルヨリ大坂府廳ヘ原告喚出サレ審問ノ上追徴ノ處斷ヲ受ケタリ然ルニ原告ヨリ事主タル紀伊國屋正三郎ヘ一時調金難行届旨ヲ以テ勘辨ノ義哀求スルヨリ其情實難默止即テ示談ノ上年賦約定ヲ結ヒ明治四年三月二十八日年賦證文ト金百兩ヲ領收致シ金六ハ準流刑ニ處セラレ其後被告ヘ讓受ケタル義ニシテ年賦約定爲シタル際ヨリ貸借ニ變性ナシタルモノナレハ證書上章ノ數句ヲ憑據トシ吉右衛門不在ヨリ一時代償云々原告第一項第二項ニ於テ申立ルモ果シテ代償ヲラハ吉右衛門ニ向テ辨償ヲ求ムルハ則可ナルモ之レヲ以テ當被告ニ對シ該約之義

務ヲ廢棄スヘキ條理ハアラサルナリ
第二 紀伊國屋正三郎死跡ヒヨリ證書讓リ受ケシ次第ハ同家從來兩替渡世ナルヲ以テ爲替金ニ金子相預ケ置キタルニ爲替相滯リシヨリ右預ケ金戻シ方掛合ヒ明治五年五月三十日該年賦證文ヲ讓リ受ケ

本文讓證書ノ寫左ノ如シ

讓リ證書之事

勢州桑名今一色寺町

萬屋彦五郎印

同親類總代

一金千百五兩也

佐藤九右衛門印

同所付添

佐野屋源治印

地請人
大坂石町

和泉屋幸助印

右者其許殿ヨリ借用金有之候處此度相對テ以別紙證書壹通正ニ讓リ渡申候處實正也然ル上者自今其許殿ヨリ御勝手次第御取立可被成候後日ニ至リ決テ故障等無之候爲後日讓リ證依テ如件

明治五年
申五月三十日

紀伊國屋とら

代判

長兵衛印

坂部徳太郎殿

年賦金借用之事

一濃州今宿村吉右衛門ヨリ取扱候米代金元不正有之候ニ付同人償可申之處家出行衛不相知候ニ付私共へ償可致旨段々御理解ニ

付御請奉申上候處實正也尤金高千百五兩ノ處素ヨリ薄身者ノ儀ニ付御上納難出來無據割濟上納方奉歎願候處於御廳其御許ニ熟談可致段被仰渡不取敢御熟談奉申上候處早速御聞濟被成下難有仕合ニ奉存候則約定左ノ通
一金千百五兩也 償金高

内當金百兩也

但シ未三月廿八日相渡候

又未年十二月限リ金百兩也

申年十一月限リ金百三拾兩也

酉年十一月限リ金百三拾兩也

戌年十一月限リ金百三拾兩也

亥年十一月限リ金百三拾兩也

子年十一月限り金百三拾兩也
丑年十一月限り金百三拾兩也
寅年十一月限り金百貳拾五兩也
右之通以割方無相違急度返濟可仕候萬一壹ケ度ニテモ相滯候得
ハ前書約定ニ不拘皆濟一時ニ御取立被成下候トモ其節一言ノ申
分無御座候然ル上ハ彦五郎ニ不拘親類ノ者一統ヨリ聊無遲滯返
濟可仕候爲後日年賦割濟證文仍而如件

明治四辛未年
三月廿八日

勢州桑名今一色町

萬屋彦五郎印

同親類總代

佐藤九右衛門印

同斷付添

地請人
大坂石町

佐野屋源治印

和泉屋幸助印

紀伊國屋正三郎殿

死跡登羅殿

代判 長兵衛殿

原告へ催促及フ處等閑置際限ナキヨリ出訴致シタルナリ
第三 初審裁判ノ後原告ヨリ濟方ノ示談アリテ粗整ヒ居シニ原告
控訴及ヒタル儀ニテ初審ノ裁判ハ至當ナリト陳申ス
仍テ判決スル左ノ如シ

第一條

原告儀吉右衛門ヨリ送來ル米ハ金六ノ脏タラサル云々第一項第二

項中ニ於テ陳述スルト雖モ金六ヨリ大坂府廳へ出シタル口供ニ吉右衛門口次ニテ原告へ三百九拾貳俵金千百五兩ノ引當ニ差入夫々金子借受ケタリトアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ送り來ル米ハ金六ノ賍タルヲ瞭々トシテ第四號第五號ノ書面アルモ今宿村多藏外六人ヨリ吉右衛門於テ買入積送リタルモノトハ看認メ難シ

第二條

原告儀被告所持スル讓受ケ證文ノ年度ハ真正ナリト認メ難シト第三項ノ如ク陳述スルト雖モ被告ハ第二項ニ於テ明治五年五月三十日讓り受タリト申陳シテ原告ノ陳述ヲ確定スヘキ證左モ無之ニ付讓り受ノ年月日ハ真正ナリト認定ス

第三條

被告於テ原告ハ追徴ノ處斷ヲ受ケタル云々第一項ノ如ク陳述スル

ト雖モ果シテ追徴ノ處斷ヲ受ケシト確認スヘキ證憑ナリシテ年賦證書前項ヲ見ルニ吉右衛門償可申ノ處家出行衛不相知候ニ付私共へ償可致旨段々御理解ニ付御請奉申上候處實正也云々熟談可致段被仰渡云々ト記載シアレハ理解ノ上償ヒ金ノ年賦證文差入タルハ判然ナルモ當時正賍ノ現在セリト視ルヘキモノモ無之ニ付旁追徴ノ處斷ナリトハ看做シ難シ而シテ賍米ニ對スル金員ハ金六ノ落手セシヲハ同人ノ口供上照々クレハ一時大坂府廳ノ理解ニ從ヒ原告於テ年賦證文差入タルモ償ヒ金致スヘキ原因無之ニ付該年賦證文ノ契約ハ無効トス

第四條

被告於テ年賦約定ヲ爲シタル際ヨリ貸借ニ變性ナシタル云々第一項ノ如ク陳述スルト雖モ當時償ヒ金ヲ原告ヨリ被告へ相渡シ更ニ

金員借用シテ證書差入タルモノニ無之ヲハ證書中金千百五兩也償
金高内當金百兩也但シ未三月二十八日相渡候又未年十一月限り云
々記載アルニテ明瞭タレハ償金ノ年賦ニシテ全ク貸借ニ變性セル
ニハアラサルナリ

第五條

前條々ノ如クニシテ原告於テ原因ナキ償金ノ償却ナスヘキ義務無
之ニ付被告ノ請求難相立候事 明治十一年
一月十九日

大審院ニ於テ

原告 坂部徳太郎代人堀田久七上告ノ要領

第一條

本訴年賦證文ノ成立ナル原由ハ本犯人金六ハ準流十年ノ刑ニ處
セラレ大坂府廳ニ於テ被告ヘ追徴申渡サレタル處徴力ニシテ一時

調金相成リ難キ旨申出タルニ依リ勘辨ヲ加ヘ熟議ノ上受領セシ年
賦證文ナレハ被告於テモ原由アリテ償還ス可キ義務ノ免ル可ヲサ
ルヲ飽迄承諾シタルモノニテ原告ハ償還ヲ受ク可キ十分ノ効力ヲ
有シタル證書ナレハ今日ニ至リ何ソ當時正贓ノ現在スルトセサル
トニ關係スルノ理アラソヤ然ルヲ東京上等裁判所ニ於テハ果シテ
追徴ノ處斷ヲ受ケシト確認ス可キ證據ナク云々一時大坂府廳ノ理
解ニ從ヒ原告^{被告}於テ年賦證文ヲ差入タルモ償ヒ金致スヘキ原由
無之ニ付該年賦證文ノ契約ハ無効トスト抑該贓米ハ大坂府廳ニ於
テハ新律綱領名例律給沒贓物條第一項ニアル強賣買ノ贓ト確認セ
ラレ被告ヘ追徴申渡サレタルモノナルニ上等裁判所ハ之レニ反シ
同條第二項ニ依リ當時正贓ノ現在スルヲ見テ該證文ノ契約ハ無効
ノモノト判決セラレタルハ法理ヲ誤解セラレタル不條理ノ裁判ナ

リト思考ス

第二條

該年賦證文明文中御廳於テ其御許へ云々早速御聞濟被成下云々ノ
文字ソレハ賍物償還ノ義務ハ全ク性質ヲ貸借ニ變換セシモノニテ
被告ハ通常ノ義務者タルハ論ヲ埃タサルナリ然ルテ東京上等裁判
所ニ於テハ年賦約定ヲ爲シタル云々全ク貸借ニ變セルニ非スト判
決セラレタルハ審理ノ至ラサル不法ノ裁判ナリト思考ス之レ上告
シテ破毀ヲ乞フ所以ナリ

辨明

上告狀中主要トスルハ金六カ準流十年ノ處斷ヲ受クルニ因リ金六
カ賍米ハ自ラ追徴ナリシモノヲシテ東京上等裁判所ニ於テハ新律
綱領名例律給沒贓物條第一項ニ因ルへキ筋ナルニ第二項ニ因リタ

ルモノト誤解シタル裁判ナリト申立ルト雖モ抑東京上等裁判所ノ
裁判ハ年賦證文ニ吉右衛門償可申ノ處家出行衛不相知候ニ付私共
へ償可致旨段々御理解ニ付御請奉申上候處實正也トアルヲ以テ理
解ノ上成立タル償ヒ金ノ年賦證文ナリト認メ果シテ被告彦五郎ガ
追徴ノ處斷ヲ受ケタルモノト看做シ難キト裁判シタルモノニシテ
是ノ裁判ニ對シ新律綱領給沒贓物條ヲ援引スへキ筋無キモノトス

判決

右ノ筋ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スへキ理由無キモノ
トス

第七拾壹號

○訴訟入費請求一件上告ノ判文明治十年十二月廿四日上告
明治十一年十月十二日申渡

原告

石川縣越前國阪井郡長

畝村外拾壹ヶ村

同縣同國同郡壹本田中

村平民

右總代兼原告

高倉 三郎四郎

三重縣平民

堀田 久七

右總代

被告

石川縣越前國阪井郡丸

岡上田町士族大崎榮太

外貳百拾五名

同縣越前國阪井郡上田

町士族

右總代兼被告

下田 桂

大坂上等裁判所ノ判文

訴訟入費請求ノ控訴

原告〔士族大崎榮太外二百十〕訴フル趣ハ本訴ノ起原タル始審訴狀中

詳細辨述スル如ク明治八年八月被告ヨリ原告ヘ對シ貸地取戻ノ詞

訟ニ及ハレタルヲ以テ借地ニ非ス舊藩ヨリノ受領地ナリトノ答辨

ヲ爲シタルニ該地所ハ民有地ヲ借リ受ケタルモノナルニ依リ返還

スヘキトノ判決ヲ受ケ之レカ不服ナルニ付明治九年五月廿五日當

上等裁判所ニ控訴及ヒシ處明治十年一月十五日該地所ハ士族受領

セシニハ相違ナキモ引米等ノ處分アルヲ以テ廢藩以後其縣廳ノ處

分ヲ受ケサルニ依リ更ニ地方官ノ處分ヲ受クヘキ事ト判決セラレ

タリ故ニ其判文第二項ニ假令地券授受相成トモ地所返還ヲ請求ス

ルノ理由ナシトストアリ

本文大坂上等裁判所ノ判文寫左ノ如シ

一原告於テ該訴士族屋敷地ハ元來舊藩ヨリ受領セシ所有地ナル旨數通ノ證書ヲ以テ陳述スト雖モ受領地改正ノ義ハ廢藩以後其縣廳ノ所分ヲ可受筋ナルニ其儘經過スル上ハ右證書ヲ以テ被告ニ對シ所有ノ申分ハ相立難シ

一被告於テ士族ニノ貸地ハ村々持主有之私有地ナレハ小作米淹滯スルニ於テハ地所返還受度旨申立ルト雖モ右地所ニ於ル元來舊藩ヨリ村方引米ニ立テ來ルニ付永代貸地ノ姿ナレハ舊藩ノ處分ヲ以テ士族ニ受領ナサシメタル地ナレハ廢藩後引米請取方ハ縣廳ノ所分ヲ受リ可キ筋ニ付假令地券授受相成ルトモ直ニ原告ニ對シ地所返還ヲ請求スルノ理由ナシトス
右ノ如クナレハ受領地改正及引米請取方ノ儀ハ原被告トモ更ニ

縣廳ノ所分ヲ受リ可キ事

明治十年一月十五日大坂上等裁判所ニ於テ裁決申渡ス者也

是ニ由テ之ヲ觀レハ被告ヨリ嚮ニ貸地ト訴ヘタル地ハ貸地ニアラズシテ原告申立ノ通り受領地ナリ又始審ニ於テ返還スヘシトノ判決ハ終審ノ判決ヲ以テ全ク反對トナレリ然ラハ被告ハ地方官ニ引米ノ所分ヲ請願スヘキ筋ナルニ其爲スヘキヲ爲サズ却テ前顯ノ如キ詞訟ニ及ヒタル末右ノ如キ終審裁判ヲ受ケタル上ハ原告於テ假令行政上ノ手數ヲ經由セサルモ全ク土地ハ受領ニ係ルモノナレハ是レ則チ被告ハ曲者トラサルヲ得サル所以ナリ故ニ其罫紙代價ノ如キハ原被告ニ徵セラル、モ始審終審ノ訴訟入費ニ至ツテハ前陳スル如ク謂レナキ詞訟ヲ惹起セラレ爲メニ多分ノ損害ヲ蒙リタル原告ナレハ此費用ヲ償ハシメンコトヲ請求スルハ道理上ニ於テモ要償ノ

趣意ニ適當セリ然ルニ況ンヤ法律上ニ於テ曲者ニリ償却セシムヘキトノ法則アルニ於テチヤ然ルニ始審裁判所於テ無證據ニ歸スルト言フヲ以テ訴狀ヲ却下セラレタルニ凡ソ詞訟上ニ於テ證據ヲ提供ス可キヲ要スルハ原被告互ノ辨論抵止スルナキニ到ランコト豫防スルノ要具ニシテ則其證據ニ依テ實際ヲ討究シ曲直ヲ判定スルヲ以テ然ルナラン今本訴ノ如キハ原被告共ニ其裁判所ヘ捧呈シタル書類或ハ審問ノ日數等ヲ以テ之レカ入費ヲ計算ス可キモノナレハ其證ハ裁判所ニ於テ自カラ備具セルモノト云フヘシ然ラハ何ソ敢テ證據ヲ提供スルヲ要スヘケンヤ加之過般目安糺ノ成例ヲ廢シ訴訟ノ端緒アルモノハ一切受理セラル、トノ法則ヲ設ケラレタルヲ以テ視ルモ本訴ノ如キハ當ニ端緒而已ニ止マラス其證左ハ裁判所ニ顯然ヨリ夫レ如此理由ナルニ被告ノ答辨ヲモ達セラレス却下セラ

レタルハ原告ノ承服シ能ハサル所ナリ依テ尙ホ至當ノ裁判ヲ受ケ度キ旨陳述ス

被告〔長畝村外十一ヶ村總代〕上坂彌平外壹名〔答〕ル趣ハ原告於テ明治十年一月十五日當上等裁判所 裁決ニ依リ被告曲者タル云々申立レテ該裁決書第一項ニ原告ノ申分ハ相立難シトアリ然ラハ原告ノ申分徹底シタルニ非ラス又被告曲者云々ノ如キモ決シテ然ラス抑詞訟上曲者タル者訴訟入費ヲ償却スルハ素ヨリ論ヲ俟タスト雖モ該詞訟裁決ノ末訴狀入費ノ一部分ナル野紙代價ヲ折半シ原被告雙方ヨリ徴セラレタルハ原被告ノ間孰レカ直孰レカ曲ナルヲ判定シ難キヲ以テノ故ナラン然ラハ被告決シテ曲者ニ非ラサルヤ判然タリ又原告於テ野紙代價ハ原被告ニ徴セラル、モ始審終審ノ訴訟入費ニ至リテハ云々申陳スルト雖モ是レ大ニ條理ニ相違シタルコトナリ何トナレハ野紙代

價ナルモノハ訴訟入費ノ一部分ニシテ詞訟上曲者ヨリ徴セラル、ハ成規ニ照ラシテ明瞭タリ而シテ其訴訟入費ノ一部分ナル郵紙代價ヲ原被雙方ヨリ上納セシ上ハ其相互ノ訴訟入費モ各自辨償スヘキハ一目瞭然クレハ之レカ喋々ヲ要セサルナリ然リ而シテ原告於テ訴訟入費各自辨償ノ處分不服ナラハ當時大審院へ上告シテ其破毀ヲ求ム可キヲ然ラスシテ右入費ヲ今般初審裁判所ニ訴へ而シテ亦當上等裁判所ニ覆審ヲ求ムルハ訴訟ノ手續ニモ返違シ且又原告第一號證據物ニ就キ之ヲ論駁セシニ其證據書ト稱スルモノハ曾テ裁判官ノ檢印モナク且其書中杜撰ノ最モ甚シキモノアリ請フ試ニ之レカー一二ノ證ヲ示サン該書掲載スル出頭日ニ明治八年八月廿一日ヨリ明治九年二月十一日迄ニ七箇日官衙ノ休廳日アリ夫レ官衙ノ休廳日ニ方リ事ノ急劇ナルヲ除ク外尋常詞訟ノ事件ニ付參廳スヘ

キノ理アラシヤ又原告ヨリ明治九年五月廿五日當上等裁判所へ捧呈セシ原告控訴狀ニハ出頭日三十六度ト記載シ這般ノ書面ニハ四十六度トアリ是等ハ最モ著明ナル相違ニシテ其他何等ノ相違アルヤモ亦知ルヘカラサルナリ斯ノ如ク其證據ト爲ス可キ者スラ尙ホ信據スルニ足ルヘキモノナシ況ンヤ之レカ請求ニ應ス可キノ理由之レナキニ於テナヤ夫レ如此次第ナレハ旁以テ原告ノ請求ニ應シ難キ旨陳述セリ

判決

第一條

原告於テ該地所ハ士族受領セシニハ相違ナキモ引米等ノ所分アルヲ以テ廢藩以后其縣廳ノ處分ヲ受ケサルニ依リ更ニ地方官ノ處分ヲ受クヘキ事ト判決セラレタリ故ニ判文第二項ニ假令地券授受相

成タルモ被告ハ地所返還ヲ原告ヘ對シ直チニ請求スル理由ナシト
ストアレハ其直者タルハ則チ原告ナリト申立被告ハ判文第一項ニ
原告ノ申分ハ難相立シトアレハ決シテ原告直者ニシテ被告曲者ヲ
ルヘキノモノニアラスト主張セリ然ルニ該裁判タルヤ右地所ハ原
告ノ所有タルニモ歸セス又被告ノ所有ニ定リシモノニモアラスト
底尙ホ一層縣官ノ調理ヲ經サレハ其所有未ク確定セサルモノトノ
旨趣ナリトス

第二條

被告ハ當裁廳ニ於テ郵紙代價ヲ各自ヨリ徴收セシテ以テ該訴ハ曲
直ナクシテ訴訟入費モ亦各自ニ之ヲ辨スヘキモノナリト申供スレ
ルニ固ヨリ該裁判ノ旨趣タルヤ前條ニ判決セシ如ク其地所タル未ク
原被間孰レノ所有ニ確定セシ者トノ裁判ニアラサレハ地所々有ノ

事件ニ付テハ之レカ曲直ナシト雖モ初メ該地所ハ被告ノ所有ナリ
ト原告ヲ相手取り之レヲ始審ヘ出訴シ始審ニ於テ既ニ被告ノ所有
ニ歸シタルヲ原告當裁廳ヘ控訴及ヒタル上ニテ該地ハ被告ノ所有
ニ確定セシモノニアラストナリ然レハ尙ホ未ク原告ノ所有ニ歸着
セシニハアラサレ共抑モ該地ヲ被告自己ノ所有ナリトノ詞訟ヲ起
セシ始メニ溯リテ之ヲ推究セハ其曲者タルハ被告之ヲ免カレサル
モノナリ故ニ原告ノ請求スル訴訟入費ハ被告ヨリ之レヲ辨償スヘ
キモノトス

但シ其入費ノ高ハ規則ニ照シ現在ノ證ニ據リ原被互ニ之レカ精
算ヲ遂クヘキモノナリ 明治十年 十月十日

大審院ニ於テ

原告 長畝村外十一ヶ村總代高倉三郎四郎外一名上告ノ要

旨

大坂上等裁判所ノ判文第二條ニ原告(今次被告)ノ請求スル訴訟入費ハ被告(今次原告)ヨリ之ヲ辨償スヘシトアレドモ抑本訴ノ起因タル貸地取戻ノ終審判文第一項ニ原告(今次被告)所有ノ申分ハ相立難シトアリ而シテ第三項ニ原告トモ更ニ縣廳ノ處分ヲ受ク可キ事トアリ然則原告ノ間地所々有ノ爭論ニ於テ其直曲ナキヲ知ルヘシ故ニ同裁判所ニ於テモ訴訟入費ノ一部分ナル郵紙代價ハ原告各自ニ徴收セラレタルナリ由是推究スルニハ則訴訟入費ノ各自辨償タルヘキハ論ヲ竣サルニ唯リ訴訟入費ノ一方ヨリ辨償スヘシトノ裁判ハ前後矛盾ノ裁判ニシテ不當ナリト思料スル所以ナリ因テ原告判ノ破毀アラソクテ請フ

被告大崎榮太外二百十五名總代下田桂答辨ノ要旨

原告ニ於テハ大坂上等裁判所カ貸地取戻ノ裁判ヲ爲シタル節郵紙代價ヲ原告各自ニ徴收シ訴訟入費請求ノ裁判ニ至テハ一方ヨリ之ヲ辨償スヘキモノナリト言渡サレタルハ前後矛盾ノ裁判ナリト主張スレドモ決シテ矛盾セルニアラサルナリ何トナレハ貸地取戻裁判ノ郵紙代價ヲ各自ニ徴收セラレタル所以ノモノハ該裁判タル論地ノ所有權ハ未タ原告ノ一方ニ歸シタリト云フニアラスシテ未定ノモノナレハ其所有爭論ノ一部ニ限リ曲直互ニ相半スレハナリ訴訟入費請求ノ裁判ニ至リ一方ヨリ之ヲ辨償スヘシト判定セラレタル所以ノモノハ該詞訟ノ原因ニ溯リ被告ノ現住スル地所ハ即チ舊藩ヨリノ受領地ニテ原告ト直接ノ關係ヲ生スヘキモノニアラズ然ルニ貸地取戻ノ名義ヲ以テ直チニ被告ニ對シ詞訟ヲ起シ而シテ其申分相立サルヲ見レハ即チ被告ニ對シ起スヘカラサル詞訟ヲ

起シタル後ニテ其手續ヲ誤リタルモノト言ハサルヲ得サレハナリ
是レ大坂上等裁判所ノ裁判ハ前後矛盾セリト爲スヲ得サルヘシ
辨明

第一條

大坂上等裁判所カ獲ニ貸地取戻ノ裁判ヲ爲スニ原告ハ縣廳ニ於テ
受領地改正ノ處分ヲ受クヘキ筈ナルヲ其儘經過スル上ハ被告ニ對
シ所有ノ申立相立カシ被告ハ假令地券授受相成ト直ニ原告ヘ對
シ地所返還ヲ請求スル理由ナケレハ原告被告共更ニ縣廳ノ處分ヲ受
クヘキ事トアリ抑物件ヲ請求スルノ訴訟ハ其物件ヲ所有スルモノ
ニ係リ之カ請求ヲ爲スハ相當ノコトニテ該地取戻ノ件ノ如キモ直ニ
其地所ニ居住スル士族等ニ對シ出訴スルハ不相當ノコトニ非ストス
然ルチ大坂上等裁判所カ殊ニ縣廳ノ處分ヲ受クヘシト判決セシハ

要之ニ該地ノ事タル別ニ地方廳ノ關涉スル所アツテ其調理ヲ經カ
レハ允當ナラスト信認スルヨリ該裁判ニ及ヒシモノニテ被告ニ係
リ訴訟スヘキモノニ非スト云フ意ニアラサルヘシ如何トナレハ同
裁判所ノ意若シ縣廳ニ係ルヘキモノニシテ被告ニ係ルヘキモノニ
非ストナレハ直ニ其士族等ヲ被告トスルノ理由ナキコトヲ説明シテ
之カ判決ヲ下スヘキナリ此ノ理ニ依テ之ヲ見レハ第二訴訟入費請
求ノ裁判ニ於テ該地ヲ被告自己ノ所有ナリトシテ詞訟ヲ起スノ始
メニ溯レハ其曲者タルハ免カレサルモノト判定セシハ不相當ノ裁
判ナリトス

第二條

大坂上等裁判所カ第一貸地取戻裁判ノ未裁許用郵紙代價ヲ原告告
ヨリ徴收セシハ原告被告互ニ曲直アルヲ以テ入費折半ノ處分ニ及ヒ

シモノナリ然ルニ第二訴訟入費請求ノ裁判ニ至テハ一方ヨリ之ヲ
 辨償スヘシトアリ同一訴訟入費ニシテ前後各違ノ處分アルハ相當
 ノト爲ヌチ得ヌ或ハ裁許用郵紙ハ訴訟ノ曲直ニ關セサルモノト
 爲ヌ乎明治九年一月十二日司法省第四號達第二條ニ裁許并呼出用
 郵紙原被告人ニ附與スル員數ノ代價ハ曲者ヨリ三日内ニ取立ヘシ
 ト云成規アリ又或ハ當初郵紙代價ヲ各自ニ取立シハ錯誤ニシテ貸
 地取戻ノ詞訟ハ原告ノ曲ト認ル乎更ニ郵紙代價ヲ被告ニ返償スル
 ノ處分ニ及ハヌシテ裁判云渡書ニ原告ノ申分相立カタシトアリ結
 局大坂上等裁判所カ自ラ前後矛盾ノ處分ヲ爲セシモノト云ハサル
 ナ得ヌ

判決

右之次第ナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於

テ裁判スルヲ左ノ如シ

明治十年一月十五日大坂上等裁判所ニオイテ云渡タル貸地取戻ノ
 裁判ハ原被告曲直相半スルヲ以テ訴訟入費ハ各自辨タルヘキモノ
 トス

第七拾貳號

○貸金催促一件上告ノ判文明治十一年四月十三日上告

原告

岐阜縣下美濃國惠那郡

中津川村十二番地平民

菅井守之助

右代人

東京府下第一大區五小

區北鞆町五番地寄留高

知縣士族

被告

岐阜縣下美濃國加茂郡

吉川直簡

切井村四番地平民小栗

忠右衛門相續人

小栗判三郎

東京上等裁判所ノ審判

原告 代人吉川直簡控訴ノ要領 明治十年九月十八日

被告小栗忠右衛門相續人小栗判三郎ニ對スル第壹號貸金證書ノ起
因タルヤ第二號證ニ記載セル金五千圓ノ利子淹滞セシテ第一號證
書ノ如ク結約セシモノナリ

第一號

證書

一金六百圓也 但シ利子壹圓ニ付 一ヶ月壹錢宛

一金四百圓 明治五年借用五千圓ニ利子明治七年十一月差入分但シ十一月元金也

一金貳百圓 同利子明治八年十二月差入分三ヶ月元金也

此質物ニ兼テ明治五年借用五千圓ニ書入仕置候質物引當ニ仕
候事右今般五千圓ノ利足差入可申處前顯ノ通正ニ借用仕候處實
正也御返金ノ儀ハ來ル明治九年四月金三百圓同六月三百圓兩度
ニ前書利子相加ヘ右限月元利共無相違御返濟可仕候若萬一相違
ノ節ハ質物貴殿御差圖通リニ致元利上モ急度御返金可仕候爲後
日證書仍テ如件

明治八年三月廿五日

加茂郡切井村

小栗忠右衛門

菅井守助殿

第三號

借用申金子證文之事

一金五千圓也 但利足年壹割貳步
 此引當質物所扣田地貳町並 家屋敷土藏七戸前書入質物 仕候
 並 御返金ノ儀ハ貴殿御支配無盡拙者加入三講五千圓 來ルハ
 少年先卯年請金ヲ以テ普濟可仕候
 右ハ今般無據御頼申上候處御聞濟被下書面ノ金子儘ニ借用仕候
 處實正明白也元金返濟ノ儀ハ來ル卯年中引當ヲ以テ御返濟可仕
 候利足ノ儀ハ每年三月十一月限リニ月割ヲ以テ無相違年々兩度
 ニ御利足勘定可仕候萬一本人不都合ノ儀有之候節ハ請人共引當
 質物支配仕少モ無相違御勘定可仕候右ハ格別御勘辨ノ上御貸被

下候金子ニ付少モ不實意等不仕定メノ通七ヶ年ノ間ニ無相違利
 足御勘定可仕候爲後日借用證文仍テ如件

明治五年申年十一月廿七日 切井村本人

小栗忠右衛門

同村請人

佐伯龜右衛門

右同斷

鈴木彦七

右同斷副長

佐伯初太郎

中津川

菅井森之助殿

裏書

證書認替之儀御布達有之候ニ付證書書替可申候處年間中ニ付右
證文ニ改印紙貼用致シ置候也

印紙同

明治八年一月廿日

抵當書入添書

一去ル明治五年壬申十一月二十七日差入置候本紙證券面元金五
千圓也借用致即為抵當書入質差入置候私所有四番地所ニ罷在候
建家壹ヶ所土藏七戸前今般相改當村役所割印相頼ニ別紙圖面ノ
通書入質仕候處相違無之候抵當書入質添書仍テ如件

明治九年九月廿四日

本人

小栗忠右衛門

証人

佐伯 初太郎

右同斷

鈴木 彦七

印 第廿四號

菅井守之助殿

前書之通相違無之依テ與印候也

右村戸長

佐伯 逸八

圖面略之

而シテ原告本訴ノ主義ハ第一號證ニ記載スル所ノ金額ニシテ其第
二號證ハ第一號證ノ原由ヲ證明セシモノナリ然ルチ初審裁判所ニ

於第一號證書ノ元素タル第二號證書ハ實際該金圓ヲ授受セシモノトハ認メ難シ其金額ハ慶應三丁卯以前ニ係ルヲ以テ壬申第三百號公布ニ依リ裁判不及トノコトナシ抑モ原告カ本訴ノ主義ハ第一號證ノ一点ニ在リシヲ第二號證ノ金額ヲモ併セテ云々ト裁判セラレシハ原告請求外ノ裁判ニシテ本訴ノ主義ニ非ラサルナリ且第二號證ノ金額ニ於ケルモ全ク明治五年十一月以來ノ貸金ニシテ其前被告トノ間ニ於ケル舊來ノ貸金ハ總テ明治五年十一月二十六日ニ於テ被告記名ノ現金引換手形ヲ授受シ實際現金ノ授受ハナカ、リシモ右手形ヲ以テ舊來ノ貸金ニ係ル第六號第七號證書ヲ悉皆被告ニ返付セシナレハ現金授受セシモ同一ナリ而シテ明治五年十一月二十七日ニ至リ更ニ右手形ハ被告ニ返付シ金九千貳百五拾圓ヲ貸付シ第二號證外三通ヲ領収セシニ付舊來ノ貸金トハ自ラ別種ナリ

縱令其金脈ハ慶應三丁卯以前ニ係ルモノトスルモ壬申第三百號公布ニ依ルニキモノニ非ス如何トナレハ該證書ノ如キハ現ニ田地家屋講金等書入セシモノナレハ明治六年第九號公布及ヒ明治五年十一月司法省第四十六號布達第十條ニ依リ裁判相成ヘキハ至當ナルヘシ加之明治七年司法省日誌第四十六號鳥取縣ヘノ指令ヲ參觀スレハ該證書ノ如キハ全ク慶應三丁卯以前ノ貸金ト連綿繼續セシモノト假定スルモ原告カ被告ヘ對シ其義務ヲ請求スルノ權利ヲ有セシハ判然ナルヘシ既ニ第二號證書ノ義務ヲ請求スルノ權利ヲ有セシモノナレハ因テ生シ第一號證ノ義務ニ於テモ亦從テ請求スルノ權利ヲ有セシハ當然ナリ依テ覆審アラソク乞フ

被告 代人淺野式夫答辨ノ要領 明治十年十一月五日

原告請求スル第一號證書ノ金圓ハ明治八年三月中悉皆返辨セリ其

證左ノ據
第一號

記

一金四百圓

一金貳百圓

金六百圓

右元金五千圓兩度ノ利子正ニ受取候也

明治八年三月

菅井守之助印

小栗忠右衛門殿

加之原告提供セル第一號證書ノ原因タル第二號證ノ金額ハ元來被
告第二號證ニ記載セル如ク慶應三丁卯以前ニ係リシ舊來ノ借入金
ヲ合算シ合計九千五百三拾四圓餘ノ内三拾四圓餘ハ現金相渡シ其

金九千五百圓ヲ明治五年十一月二十七日ニ至リ原告第二號證即被
告第五號以下第八號證ノ如ク結約シ其後第九號證ノ通り漸次返辨
及ビタリ然ルモ原告於テハ假令該證書ノ金脈ハ慶應三丁卯以前ニ
係リシモノトスルモ其證書ハ家作建物等書入ナシタルモノナルヲ
以テ明治六年第九號公布及ビ明治五年司法省第四十六號布達等ニ
依リ云々主張スレモ其證書ハ明治八年第四百十八號公布建物書入
質ノ成規ニ依リ公正ノ手順ヲ盡シタルモノニ非スシテ明治九年九
月二十三日ニ至リ別ニ家作書入ノ書面ヲ加ヘタルマテナレハ右成
規ニ反シシ證書ナルニ付素ヨリ其効ナカルヘシ前條ノ次第ナルニ
付原告ノ請求ハ應シ難シ

判文

原告請求スル所ノ甲第壹號明治八年三月二十五日付證ニ記載スル

金額ハ甲第二號明治五壬申年十一月二十七日付證ニ記載スル所ノ
 金額ノ利息ナレハ其原由ヲ知ラントスルニハ先ツ甲第貳號證ニ記
 載スル所ノ金額ニ溯リ之ヲ論セサルヲ得ス然ルニ原告ハ明治四年
 已前ニ當リ原被告ノ間ニ於テ授受セシ所ノ金額ハ被告提供スル乙
 第貳號證ニ記載セシカ如クニシテ其他ニ之ヲ做セシヨアルヘカラ
 スト云ヒ而シテ被告提供スル乙第三號乙第四號乙第五號乙第六號
 乙第七號乙第八號及ヒ乙第九號證ヲ參觀シ且原被告ノ陳述スル所
 ニ依ルニ甲第貳號則チ乙第五號證ニ記載スル金五千圓ハ乙第三號
 及ヒ乙第四號證ニ記載セラレタル合金八千五百九十兩銀四匁八分
 ノ内ニシテ乙第三號及ヒ乙第四號證ノ金額ハ其源チ乙第貳號證ニ
 記載スル所ノ金額則チ慶應三丁卯十二月晦日以前ニ發セシモノナ
 リトス其原告ニ於テ乙第三號及ヒ乙第四號證ニ記載スル所ノ金額

○エ

ハ明治五年十二月二十六日ニ於テ原告ハ被告記名金員引換ノ手形
 チ受取リ之ヲ以テ一時濟方ニ及ヒ更ニ明治五年十二月二十七日ニ
 於テ右手形ハ原告ノ意ニ充タサルニ付乙第五號以下ノ證ヲ以テ其
 金額ヲ貸與シ被告記名ノ手形ハ被告ニ還付シタルナリト云フニ依
 ルニ明治五年十二月二十六日及ヒ二十七日原被告ノ間ニ於テ乙第
 三號以下乙第八號ニ至ル證ニ記載スル所ノ金額ハ書面ヲ以テ授受
 ノ手續ヲ做セシノミニシテ其實金額ヲ授受セシモノニアラストス
 因テ甲第二號則チ乙第五號證ニ記載スル所ノ金五千圓ハ乙第二號
 證ニ起因シ乙第三號及ヒ乙第四號證ヲ經テ而シテ甲第二號則チ乙
 第五號證ニ轉換セシモノナリトス其原告カ乙第二號證ニ記載スル
 如ク貸金ノ質物トシテ被告ヨリ沽券等ヲ受取リ置キ明治五年十二
 月二十六日被告カ借用金ヲ返濟セシ際之ヲ被告ニ還付シタリト云フ

モ被告乙第二號證ニ記載スル如ク質物ヲ原告ニ渡セシコナク假令一時一二ノ質物ヲ渡セシコナリトスルモ悉ク之ヲ取戻シ丁卯年以前ヨリ一モ質物ヲ原告ニ渡シ置キシコナク且乙第三號證ニ記載セシ質物ノ事柄ノ如キ原告ニ於テ隨意ニ書記セシモノコシテ據ルヘキノ證ナシト云フニ原告ノ乙第二號證ニ記載スル金額則チ乙第三號及ヒ乙第四號證ニ記載スル所ノ貸金ハ明治五年十二月二十六日以前ニ於テ質物ヲ有セシ所ノ貸金タルノ證ナク而シテ甲第二號證ニハ特ニ引當質物トアルノミコシテ原告ハ質地ノ手續ヲ履行セテ且其地所ノ沽券狀ヲ領セサレハ該證ヲ以テ質地ノ効チ有スルモノト見做スヘカラス又其講金ニ關スル事柄ハ甲二號證ニ御返金ノ儀ハ貴殿御支配無盡拙者加入三講金五千圓ト來ル八ヶ年先卯年講金ヲ以テ皆濟可致候トアルニ依レハ被告カ該證ノ金額ヲ返濟スル

ニ當リ該講金ヲ以テ之ニ充ツヘシト云フノ意コシテ之ヲ質物ト做セシモノト認メ難シトス然ルレハ甲第一號證ナル金額ノ由テ生スル所ノ甲第二號證ノ金額ハ慶應三年十二月晦日以前ニ係レル貸借金ニシテ而シテ之ヨリ生スル所ノ利息金乃チ本訴請求ノ金額ナレハ則チ慶應三年十二月晦日以前ノ貸金ト同視スヘキモノナルニ依リ明治五年壬申第三百十七號公布ニ準據シ裁判ニ不及儀ト可相心得事

大審院ニ於テ

原告 代人吉川直簡上告ノ要旨

第一條

本訴第一號證ノ原由タル第二號證ノ要トスル所ハ其證書ノ質物ヲ有シタル否トノ一點ニ在リ然ルテ東京上等裁判所ハ該質物ノ有

無ニ於テ何等ノ判決モ與ヘラレザリシハ不法ノ裁判ト思考ス

第二條

東京上等裁判所ノ判文ニ原告ハ乙第二號證ニ記載スル金額則チ乙第三號證及ヒ乙第四號證ニ記載スル所ノ貸金ハ明治五年十一月二十六日已前ニ於テ質物チ有セシ所ノ證ナクトアレモ現ニ被告カ呈供セシ其第二號證ニ質物云々ト記載シアリ又原告第九號證書チ以テモ當時原告カ許多ノ質物チ有セシヲ證スルニ足ルヘシ且ツ其第九號證タルヤ明治五年十月中舊笠松縣廳へ出訴ナシタル未被告ニ於テ該貸金チ返済セシヲ以テ最前有セシ所ノ質物ハ被告へ返付セシニ付當時笠松縣廳へ呈供ナシタル證書チ謄寫セシモノコト固ヨリ判然明確ナル證書ナリシチ前顯ノ如ク質物チ有セシノ證ナクト判決セラレタルハ不法ノ裁判ト思考ス

第三條

同判文ニ甲第一號證ノ原由タル甲第二號證ノ金額ハ慶應三年十二月晦日以前ニ係ル貸借金云々トアレモ其甲第一號證ノ金額ハ明治五年十一月二十七日ヲ以テ更ニ貸付シタル第二號證金額ノ利子ニシテ被告カ提供セシ所ノ證書ニ關シタル明治五年十一月二十六日以前ニ於テ悉皆返辨受ケシ舊來ノ貸金トハ自ラ別種ナリ且ツ原告カ請求セシ本訴ノ主義ハ第一號證ノ金額ニシテ其第二號證ノ如キハ第一號證ノ原由チ證明セシ迄ノモノナリシチ東京上等裁判所ハ原告カ曾テ請求セザリシ第二號證ノ金額チ併セテ云々ト判決セラレシハ不法ノ裁判ト思考ス

第四條

同判文ニ慶應三年十二月晦日已前ノ貸金ト同視スヘキモノナルニ

依り明治五年壬申第三百拾七號公布ニ準據シ裁判不及トアレヒタ
トハ慶應三丁卯以前ノ貸金ト同視スヘキモノナルモ既ニ前條ニモ
陳述セシ如ク其證書ハ質物ヲ有セシモノナレハ明治五年十一月司
法省第四十六號布達第十條及ヒ明治六年第九號公布ニ準據スヘキ
モノナルヲ壬申第三百拾七號公布ニ準據セラレシハ不法ノ裁判ト
思考ス

辨明

第一條

原告ハ第二號證ノ質物ヲ有シタルト否トニ於テハ何等ノ判決モ與
ヘラレスト申立レヒ東京上等裁判所ノ裁判ニ甲第二號證ニハ特ニ
引當質物トアルノミニシテ原告ハ質地ノ手續ヲ履行セス且其地所
ノ沽券狀ヲ領セザレハ該證ヲ以テ質地ノ効ヲ有スルモノト見做ス

ヘカラヌ云々トアリ此ニ由テ之ヲ見レハ第二號證ニ記載スル引當
質物ハ其質物タルノ効ナキモノト判定セシモノニテ決テ何等ノ判
決ヲ與ヘスト言ヘカラス

但明治九年九月二十四日附テ以テ抵當書入添書ヲ原告ニ請取ア
ルモ明治八年九月三十日第四百四十八號布告建物書入質規則第九
條第十條ニ抵觸スルヲ以テ同シク抵當ノ効ナキモノトス

第二條

原告ハ明治五年十一月二十六日以前ニ於テ質物ヲ有セシ證アルハ
被告第二號證ニ質物云々ト記載アリ又原告第九號證寫ヲ以テ明確
ナル旨申立レヒ當初一ニノ質物ヲ原告ヘ渡セシコアリトスルモ悉
ク之ヲ被告ヘ取戻シ丁卯巳前ヨリ連綿質物ヲ原告ニ渡シ置シコナ
ケレハ東京上等裁判所カ明治五年十二月二十六日巳前ニ於テ質物

ナ有セシ貸金タルノ證ナシト判決スルモ不法ノ裁判ニアラストス
但原告第九號證舊笠松縣へ出訴云々ハ東京上等裁判所へ申立サ
ルコナルヲ以テ之カ辨明ヲ與ヘス

第三條

原告ハ第一號證ノ金額ハ明治五年十一月二十七日更ニ貸付シタル
第二號證金額ノ利子ニシテ舊來ノ貸金トハ別種ナリ且原告カ請求
スルハ第一號證ノ金額ナルニ第二號證ノ金額ヲ併テ判決セラレシ
ハ不法ノ裁判ナリト申立レト第一號證ノ金額ハ明治五年借用五千
圓ノ利子トアレハ第二號證五千圓ニ就テ之カ審判ヲ爲サ、レハ其
狀情ヲ知ルニ由ナシ而シテ其第二號證五千圓ノ金額ハ其原因ヲ丁
卯巳前ニ發セシモノトスルハ被告第三號第四號ニ記載シタル合金
八千五百餘圓ノ内ニシテ其明治五年十一月二十六日被告へノ貸金

ハ請取タリト言モ唯手形ノ受授ヲ爲セシ迄ニテ現ニ金額ヲ還付
タルモノニ非レハ其翌日タル明治五年十一月二十七日ニ於テ手形
ヲ被告ニ還シテ第二號證書ヲ受取タルハ該證書ハ即チ丁卯以前ノ
貸金ヲ斟酌シテ書改タルモノトス仍テ東京上等裁判所カ第一號證
ノ元素タル第二號證ヲ推究シテ慶應三年十二月晦日以前ノ貸金ト
同視スヘキモノト判決セシハ不法ノ裁判ニアラストス

第四條

原告ハ假令丁卯巳前ノ貸金ト同視スヘキモ其證書ハ質物ヲ有セシ
モノナレハ云々ト申立レト該證質物ノ効ナキコトハ第一條ニ辨明ス
ルカ如クナレハ明治五年十一月司法省第四十號布達第十條及ヒ明
治六年第九號公布ニ準據スヘキモノニアラストス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナ
キモノトス

第七拾三號

○地所受戻催促一件上告ノ判文明治十一年一月四日上告

原告

兵庫縣下播磨國加東郡

下小田村平民依藤幾四

郎代人

東京府下第四大區一小

區神田淡路町一丁目一

番地堺縣士族

佐藤終吉

被告

兵庫縣下播磨國加東郡

大坂上等裁判所ノ審判

原告 依藤幾四郎代人竹澤節藏控訴ノ要領 明治十年八
月十一日

論所下小田村字クロナベ下田壹反三畝廿三步并ニ貳畝廿壹步之二
筆ハ原告幾四郎先々代東九郎存生中天保四年四月被告吉右衛門先
代吉兵衛ヨリ銀壹貫百目ニテ讓受ケ左ノ證書取置タリ

第壹號

田地讓リ渡證文之事

字黒ナベ忠左衛門受

一 下田壹反三畝廿三步

分米壹石七斗九升

字同所同人

下小田村平民

藤原吉右衛門

一 下田貳畝廿壹步

分米三斗五升壹合

右之田地我等所持ニ御座候處此度勝手ニ付其元殿ニ讓リ渡シ料銀壹貫百匁儘ニ請取申處實正也然ル上ハ當巳年ヨリ御年貢諸役等其元ヨリ相勤被成御勝手次第ニ御支配可被成其時我等不及申何方ヨリモ故障妨申モノ毛頭無之候爲後日之田地讓リ證文依テ如件

天保四年

癸巳四月

田地讓リ主

下小田村

吉兵衛印

右之通り相違無之候ニ付役印致候以上

年寄

藤太夫印

同斷

清七印

兼帶庄屋

在田武左衛門印

同村

東九郎殿

又同村字若宮之東上田三畝七步ノ一筆ハ弘化二年中右東九郎儀繁昌村小兵衛ヨリ銀五百目ニテ讓受ケ右讓受ケノ證ハ左ノ村吏ノ上申書ニ依テ判然タリ

第二號

上申書

一第一項二項略之

百九十七ばん
字若宮の敷市兵衛受

一 上田三畝七歩

分米五斗壹升五合

右 上田三畝七歩ハ天保四巳年十二月ニ銀三百二拾匁ニ質物ニ玉
野新家村源吉へ指入罷在候處同人ヨリ繁昌村小兵衛へ証文讓リ
天保十亥年十月廿一日大坂御奉行所へ被願上同十一月廿一日對
決被仰付奉畏對決之上先訴取渡シ被爲仰付相濟可申候様被爲仰
付候處先訴相濟此分天保十二丑閏正月ニ質物帳切致シ右小兵衛
所持仕候處弘化二巳年中同人ヨリ村方東九郎へ讓リ渡シ當時幾
四郎所持仕候
右之通り村方名寄帳面ニ記載仕有之候ニ付此段上伸書差上候以
上

右村戸長代

明治九年十二月十五日

依 藤 總 三 郎 印

姫路支廳神戸裁判所

一級判事補國東義路殿

右ノ如ク上田下田ノ三筆ハ原告依藤幾四郎之ヲ所有シ被告吉右衛
門ニ小作爲致置タル處明治八年十一月被告吉右衛門ヨリ原告幾四
郎ニ係リ返リ證書ヲ證トシ舊飾磨縣へ地所請戻シ催促ノ出訴ニ及
ヒ其後神戸裁判所姫路支廳ニ涉リ審問ノ末明治十年五月十二日同
應ニ於テ右返リ證書ヲ採用セラレ結局原告(控訴被告)吉右衛門ヨリ請求スル
三筆ノ地所被告(幾四郎)於テ速ニ返却ス可シト裁判セラレタリ然
レモ被告吉右衛門ノ證トスル返リ證書ニ下田貳畝廿壹歩分米五斗
五升壹合トアレモ原告幾四郎所有ノ字クロナヘ下田同反別ノ分米

ハ前顯田地讓リ渡シ證文ノ通り三斗五升壹合ニシテ役場ノ帳簿ニ
モ同様記載シ之レアリ右返リ證書ノ如キ地所ハ原告幾四郎ニ於テ
一切承知致サス最該村中他ニ同反別モ之レナク元來三筆ノ地所ナ
銀壹貫六百目ニテ讓受タルモノナレハ數十年ノ末ニ至リ其元銀ニ
モ足ラサル壹貫五百目ノ代銀ヲ以テ戻スヘクトノ返リ證書ヲ渡ス
ヘキ筈ナク抑モ返リトハ元ニ復スルノ謂レナルニ本訴ノ如ク小兵
衛ヨリ讓受シ地ヲ被告吉右衛門ニ渡サハ元ニ復スルモノニ非サル
ナリ尙ホ被告吉右衛門ニ於テ返リ證書ノ下案ヲ作為セシ證據左ノ
如シ

第四號

證札ノ事

右之田地屋敷地其元持ニ候處此度當何年ヨリ何貫何百匁ニテ此

○

方讓リ受持ニ罷在候然ル上其許讓リ證文本銀相立候ハ、年限ニ
不拘何時ニ而モ二筆共相戻シ可申候爲後日證札依テ如件
天保十年亥十一月 下小田村

村 殿

田地屋敷地戻シ歸リ證

右ノ田地居屋敷其許持ニ有之候處當何年ヨリ讓リ料銀何貫目ニ
テ此方讓リ受持ニ罷在候事實正也然ル上其許生清次第年限ニ不
拘二筆共元銀子相立候得ハ何時ニテモ畝高共其儘相戻シ可申候
爲後日田地屋敷地戻シ證札依テ如件

右ノ下按ニ東九郎(原告先々代)ノ自書ヲ添ヘ之ヲ大坂府下平民秦淡
岳ニ付シ東九郎ノ偽筆ヲ依頼シタルニ淡岳ニ於テハ其所爲ヲ肯セ
サル趣原告幾四郎ニ於テ之ヲ傳聞シ辻彦五郎ナル者ヲ以テ其眞偽

淡岳ニ照會セシニ淡岳ヨリ彦五郎へ左ノ返書ヲ差贈リタリ

第三號

此度下小田村藤原吉右衛門ノ義御尋ノ事ニ付左ノ通り
先年右吉右衛門直筆ノ下書持參ニテ偽證書相認吳候様依頼之趣
私共留守中ニテ右下書預ケ置歸村仕其後又候罷出相頼候得共此
事件ハ他人難澁相醸シ候事故相斷リ書類モ返却候得者其儘歸宅
仕候又其後右預リ之書類返却候間請取ニ可罷出様以幸便申達候
得共其儘等閑ニ相成候故右書類其許様へ差送り候間御請取可被
下候

下小田村田地帳切主常三郎外ニ

年 寄 一 人
庄 屋 二 人

右四名之證書一通

吉右衛門直筆ノ下書裏表半紙
壹枚

右ハ吉右衛門下書モ受取ニ罷出不申位之事故私ニ於テハ偽書等
致候事ハ決テ無之又印形之事ハ吉右衛門被申候ニハ右書類相認
メ御承知被下候得ハ調印ノ白紙持參候様被申候得共私共不承知
ノ事故其後ハ一切立寄不申候
右ノ通少シモ相違無之候以上

明治八年七月十二日 大坂府下第三大區十

二小區新町南通二丁

目二十七番地

秦 淡 岳印

辻彦五郎様

且又西村酒井直吉亡父寅之助ニ於テ本訴返リ證書ヲ取扱人トシテ
押印シタルハ全ク何心ナク押印シタル旨右直吉ヨリ下來住村住元
慶藏ニ差入タル書面左ノ如シ

第五號

印鑑添書

別紙之通印鑑仕渡候ニ付御尋之義左ニ申上候

一今般下小田村吉右衛門ヨリ田地居屋敷返リ證持參ニテ被罷出
私父寅之助取扱人ト有之仕渡人大四郎印形有之ニ付無何心跡ニ
リ調印仕候義ハ慥ニ承リ罷在候依有體書相添申處如件

明治八年亥十二月

第三大區第三小區西村

酒井直吉印

下來住村

住元慶藏殿

夫如此淡岳ノ偽筆ヲ托セラレ寅之助ニ於テ該證へ何心ナク押印シ
タルヲ判然タル上ハ淡岳ニ於テ其偽筆ノヲ承諾セカリシナレト
モ右等ヲ以テモ該返リ證書ノ偽造ニ係リタルヲ自カラ知ルヘキナ
リ又被告ニ於テ原告幾四郎先代兄大四郎ヨリ眞實ニ返リ證書ヲ受
ケ所持スルモノナレハ原告幾四郎家督相續ノ際ニ承引スヘキ筈ナ
ルニ其義ナク後年ニ至リ本訴ノ返リ證書ヲ以テ請求ナスハ不都合
ノトイフヘシ想フニ大四郎存生中印章ヲ被告ニ渡セシヲ數回ア
レハ當時竊ニ押印ヤレシカ將々大四郎死亡後印章ヲ失ヒタルハ其
印章被告ノ手ニ入リシモノナラン且該争訟ノ地所ハ明治七年九月
村内依藤惣三郎ニ賣渡シ其實地所ヲ抵當トナシ金員借用ナシタル

義ナレハ貢租等該地ニ係ル義務ハ原告ニテ之ヲ辨シ且被告吉右衛門ニ對シ該地ノ小作引揚ヲ請求ナセシト等アリテ在舊地券ノ切換ヲセカリシモノナレトモ該地ハ總三郎へ賣渡ノ證書ヲ差入アリタル上ハ今更之レテ以テ被告吉右衛門ノ請求ニ應セントスルモ得ヘカラス況ヤ被告證トスル返リ證書ハ偽筆ノ證左判然タル上ハ該地ヲ被告へ差戻スヘキ條理之レナキコト付覆審ノ上至當ノ裁判アラントナク

被告 藤原吉右衛門答辨ノ要領

本訴争フ處ノ下小田村字若宮之東上田三畝七步同クナヘ下田壹反三畝廿三步並貳畝廿壹步ノ三筆ハ元來被告吉右衛門先代兄吉兵衛ノ所有地ニ有之所内下田ノ二筆ハ同人ヨリ原告幾四郎先々代東九郎へ質物ニ差入シ終ニ天保四年四月流地トナシ代價返償スレハ

何時ニテモ差戻スヘキノ返リ證書取置キ上田一筆ハ吉兵衛ヨリ玉野新家村源吉へ質物ニ差入シニ該證書ヲ源吉ヨリ繁昌村小兵衛へ讓與シ依テ小兵衛ヨリ質地帳切リノ訴訟ニ及ハレシ際被告先代吉兵衛ヨリ小兵衛へ地所讓渡シ是又代價返償スレハ何時ニテモ差戻スヘキ旨ノ返リ證書取置ク處尙ホ小兵衛ヨリ該地ヲ原告幾四郎先々代東九郎へ讓渡シタルニ付同人ヨリ更ニ返リ證書取之上田下田ノ三筆共先代ヨリ今ニ至ル迄小作致シ來レリ且其返リ證書ニ依リ地所受戻シノ掛合中嘉永二年三月被告吉右衛門先代吉兵衛死去シタルヲ以テ被告吉右衛門ヨリ原告先々代東九郎及ヒ同人死去ノ後ハ其相續人タル大四郎へ掛合當時被告吉右衛門方へ取置タル返リ證書ニ年限無之處明治元年閏四月本訴證書ノ如ク年限及ヒ受戻スヘキ代價ヲ定メ其年未ク改元前ニテ慶應四年辰閏四月付ノ左ノ證

書ヲ取置キタリ

田地屋敷地歸リ一札ノ事

字若宮ノ東六畝拾三步ノ内

一 上田三畝七步

分米五斗壹升五合

字ノロナベ

一 下田壹反三畝廿壹步

分米壹石七斗九升

字同斷

一 下田貳畝廿壹步

分米五斗五升壹合

右ノ田地並ニ屋敷共此方所持ニ有之候處此度ノ相對ニテ來ル亥十一月ニ相成候得ハ代銀壹貫五百目ニテ右地所無異儀相戻シ可申候爲其歸リ一札依テ如件

下小田村

慶應四年

田地渡シ主

辰閏四月

大 四 郎 印

西村取扱人

寅 之 助 印

同 村

吉右衛門殿

右證書中記載スル期限ニ至リタルニ付明治八年十一月原告幾四郎へ對シ地所受戻ノ義舊節磨縣へ出訴シタルニ同縣ヨリ神戸裁判所姫路支廳ニ涉リ審問ノ末被告請求ノ通裁判相成タル處原告幾四郎ハ之レニ服セスシテ控訴ニ及ヒ到底本訴ノ返リ證書ヲ不正ナルモノトシ續々陳述スト雖モ該證書タルヤ前陳ノ如ク漸々改正ナシタルモノニテ該地讓渡シ以來數年ヲ歷明治九年ニ至リ初メテ收受シ

タルニアラス又受戻シ代價ハ上田ニ屬セシ建家ヲ爰キニ受戻シタル代價等ヲ計算シ熟識上ニテ定メタルモノニ之レアリ證書分米ノ相違スルハ筆者ノ誤リナルヘシ抑モ返リ證トハ元ニ復スルノ謂レナレハ元所有者タル原告於テ之レヲ受戻スハ理ノ當チ得タルモノナリ秦淡岳ヘ返リ證ノ文案ニ通チ付シタルハ其文案ニシテ地所取戻スヘキ權利アルヤノ問合セシ迄ニテ他念之レナク原告幾四郎提供シタル返リ證書ノ下案并ニ淡岳ヨリ辻彦五郎ヘ差入レタル書面ノ如キハ原告幾四郎ヨリ小澤村辻彦五郎ヲ以テ淡岳ニ依頼シ同人於テハ頼ニ應シ不正之書面差送リシトハ淡岳ノ代人松原政右衛門ヨリ初審裁判所ヘノ申立ニテ明瞭ナリ其他原告幾四郎ノ陳述スル返リ證書偽造云々ハ一切無根之苦情ニシテ尙ホ該地ヲ村内依藤總三郎ヘ賣渡シタル杯今更陳述スレトモ原告幾四郎ヨリ提供シ

タル物三郎ヘノ賣渡シ證書ノ通り明治七年九月二十日ニ惣三郎ヘ賣渡セシモノトスレハ明治八年六月以來再三該地小作ノ義ニ付原告幾四郎ヨリ被告吉右衛門ヘ係リ訴訟ヲナスヘキ理由之レナク畢竟惣三郎ハ原告ト本分ノ間柄ナルヲ以テ該地ヲ被告吉右衛門ヘ引渡ス間敷ト賣渡シノ體裁ニナシタルモノト思考ス

判決

第一條

原告ハ被告提供スル返リ證書ヲ偽造物ナリトシ第五號證書ヲ以テ之レヲ證明スレハ該證書ニ於ルヤ取扱人寅之助ノ押捺セシ印影ノ情實ヲ同人死亡後其倅直吉ニ正シタルモノニテ最モ漠然タル證書ナリ且原告第四號證書ノ如キハ被告ノ自筆ナルモ本訴ノ證書ト同文ニシテサレバ返リ證書ノ文案ヲ記載シタルノミナシハ右等ノ證書

以テ偽造物ナリトハ證明シカタクシ依テ本訴返リ證書ハ真正ノモノ
ナリト見認メタリ

第二條

被告提供スル返リ證書中ノ下田一筆ハ原告所有ノ下田一筆ト同反
別ニシテ分米ニ差異アルヲ以テ原告ハ自分所有地ニアラサルカ如
ク申陳スレトモ該證書ニ記列スル餘ノ一筆ハ反別分米トモ原告所
有地ニ適當シ加フルニ該村中他ニ同反別之レナキ旨原告自カラ申
立ル上ハ證書面只一字ノ相違アルヲ以テ訴外ノ地所トハ看認カタ
シトス

第三條

原告於テ該地ヲ依藤惣三郎へ賣渡シタルハ證書ノ明文ノミニテ其
實地所ヲ抵當トナシ金員借用シタルモノナレハ貢租等該地ニ係ル

義務ハ現今迄悉皆原告コテ負擔セシ旨自陳シ加之未タ地券證ノ書
換ヲモナサ、ルモノナレハ該地所有ノ權ハ原告ニ有スルヲ明カナ
リ依テ該地ハ惣三郎へ賣渡シタルコト付今更被告ノ請求ニ應シカク
キトノ原告申分ハ相立サルモノトス
前條々ノ理由ナルニ付原告ハ被告提供スル返リ證書ニ對シ其義務
ヲ盡スヘキ事 明治十年十
月十三日

大審院ニ於テ

原告 依藤幾四郎代人佐藤終吉上告ノ要領

第一條

大坂上等裁判所ニ於テ原告幾四郎ハ被告吉右衛門ヨリ提供スル返
リ證書ニ對シ其義務ヲ盡スヘキ旨裁判アリタレモ該返リ證書ハ詐
偽不正ノ證書ニシテ該書ニ對シ義務ヲ盡スヘキ謂レ之レナシ依テ

今事實ト證左トニ依リ該證ノ偽造タル所以ヲ逐項陳述スル左ノ如

第一項 論所字黒ナベ下田壹反三畝廿三步下田貳畝廿壹歩ノ二筆ハ天保四年四月中原告先々代依藤東九郎存生中被告先代吉兵衛ヨリ譲リ受ケテ字若宮ノ東上田三畝七歩ハ弘化二年中繁昌村小兵衛ヨリ譲リ受ケタルモノニシテ當時吉右衛門ヨリ小兵衛ヘ對シ返リ證書ヲ附與セシメ之レナシ

第二項 眞ニ返リ證書ヲ與ヘタリトセハ上田三畝七歩ハ其讓リ渡主タル小兵衛ヘ與ヘサレハ返リ證書ト言ヒ難シ故ニ原告先代大四郎ニ於テ三筆ノ田地ヲ一箇ニシタル返リ證書ヲ被告ヘ可差出筈之レナシ

第三項 原告幾四郎ニ於テ先代大四郎ヨリ返リ證書ヲ被告ヘ與

ヘタル義ハ大四郎存命中曾テ承知致サ、リシ

第四項 従前ヨリ國內一般ノ習慣ニ於テ田地讓リ戻シ或ハ質入受戻シヲ約スル年期ハ十年ヨリ超過セシメ之レナシ成法明治六年省第四十六號布達ニ於テ明治六年七月迄ハ質地ヨリ起ル訴訟ニ十年ノ期限ヲ定メラレタルモ該習慣ニ準據セラレタル儀ニ可有之總テ維新以前ノ取引ニ係ル質地ハ十年ヲ經過スレハ受戻シノ効力ヲ失スルハ論ヲ埃ス况ンヤ譲リ渡シノ地所ニ於テテヤ故ニ天保四年ヨリ三十六年ノ後ナル明治元年慶應四年ニ於テ更ニ大四郎ヨリ被告ヘ返リ證書ヲ與フヘキ筈之レナシ

第五項 下田二筆ノ田地ハ代價銀壹貫百目ニシテ上田一筆ノ田地ハ代價銀五百目ナレハ合計壹貫六百目ナリ然ルニ金價ノ大ニ騰貴セシ三十六年ノ後其元價ニ不足ナル銀壹貫五百目ヨテ買戻

シテ約スヘキ筈之レナシ

第六項 天保四年頃ノ銀壹貫五百目ハ金貳拾五圓ニ該リ〔金壹圓ニ付銀六拾目〕米凡貳拾五石ヲ買得ヘシ慶應四年中ノ銀壹貫五百目ハ金六圓ニ該リ〔金壹圓ニ付二百〕米壹石三斗程ノ價ナレハ如此不相當ナル代價ヲ以テ田地讓リ戻シノ契約ヲナスヘキ筈之レナシ

第七項 明治元年〔慶應四年〕閏四月中大四郎儀銀五貫目被告ヨリ借用セシ節該證書ヘ捺印ノメ被告ヘ印形ヲ相渡シタル儀之レアリ

第八項 被告ニ於テ證トスル返リ證書ノ年月モ慶應四年閏四月ニシテ大四郎カ被告ヘ印形ヲ渡シタルハ其時ナリシ

第九項 明治六年三四月頃地券發行ニ付村中ノ者集會ノ節若シ田地讓リ戻シノ返リ證書所持有之者ハ其段戸長ヘ可申出旨村役人ヨリ申渡サレタルニ被告ハ當時何等ノ儀モ申出サ、リシ

第十項 被告カ返リ證書ノ偽造ヲ〔第七號證〕秦淡岳ヘ依頼シ淡岳ハ其依頼アリシヲ保證〔第六號證〕セシ事

第十一項 返リ證ハ被告ノ眞筆〔第七號證〕ニ相違之レナシ

第十二項 田地讓リ渡シノ節返リ證書ヲ交換スル時ハ里正ニ於テ來ル何年迄ニ讓リ戻スヘキ契約有之旨第四號附録ノ如ク名寄帳ヘ記載スヘキ習慣ナルニ原告先々代東九郎ニ於テ二筆ノ田地ヲ吉兵衛ヨリ一筆ノ田地ヲ小兵衛ヨリ讓受ケタル節其儀ヲ記載シタルノ之レナシ

第十三項 總テ田畑質入讓リ渡シ等ノ證書ニハ標記ノ地所每一筆並ニ金員記載ノ肩ヘ押印スルハ下小田村ハ勿論國內一般ノ習慣ナルニ該返リ證ハ大四郎記名ノ下ヘ押印セシノニ是則被告ハ白紙ヘ調印致シ置キ〔第六號證〕淡岳ノ書面中右書類相認メ御承知被下候得、調印ノ白紙持參リ候様被申居候

云々跡ヨリ證書ノ文面ヲ書載セタルモノト承認セリ

第十四項 下田二筆字黒ナヘノ開發人ハ忠左衛門ナル者上田一筆字若宮ノ東ノ開發人ハ市兵衛ナル者ニシテ名寄帳〔第四號證〕記載アリ

ハ勿論總テ田地讓リ渡シ又ハ質入等ノ證書ニハ必ス開發人ノ名稱ヲ肩書スヘキハ下小田村ノ習慣ナルニ返リ證ハ之ヲ記載セザリシ

第十五項 下田貳畝廿壹歩ノ分米ハ三斗五升壹合〔第一號第二號第三號第四號〕

證中皆三斗五升ナルニ返リ證書ハ五斗五升壹合ト記載セリ

第十六項 返リ證書冒頭ニハ右ノ田地並ニ屋敷共此方所持云々末尾ニハ無異議相展シ可申候云々ト有之首尾完全ナラス

第十七項 返リ證書大四郎印影ト取扱人寅之助印影ト其肉色新陳ノ差異アリ同時ニ捺印セシ者トハ見認メ難シ

第十八項 返リ證書大四郎記名ト宛名吉右衛門トノ字行狹隘ニシテ取扱人寅之助トアルハ跡ヨリ記名調印セシモノト見認メザリ

第十九項 寅之助調印ハ大四郎ヨリ之ヲ要シ證書全備ノ上吉右衛門ヘ授クヘキ筈ナルニ否ラスシテ吉右衛門ヨリ寅之助〔其實助死亡後直吉〕調印ヲ要求セリ〔第九號證〕

右十九項ニ陳述スル事實ト證佐トニ依レハ返リ證書ノ偽造タルト判然著明ナリトス依テ今大坂上等裁判所ノ裁判ニ對シ之レカ辨駁ヲナシ該證ノ偽造タルトナ尙微細ニ陳述スル左條ノ如シ

第二條

同裁判所ノ判文第一條ニ原告ハ返リ證書ヲ偽造トシ第五號證〔上告第九號〕ヲ以テ之ヲ證明スレド該書ニ於ケルヤ扱人寅之助ノ押捺セシ印

影ノ情實ヲ同人死亡後其倅直吉ニ正シタルモノニテ最モ漠然タル
 證書ナリト裁判アリタルトモ原告幾四郎ヨリ返リ證書ヲ偽造ノ證
 トシテ提供シタルハ單ニ第九號ノ證書〔酒井直吉ヨリ住元〕ノミナラ
 ス第三號〔依藤惣三郎ヨリ神戶裁〕第六號〔秦淡岳ヨリ辻彦五〕第七號
〔返リ證書〕等盡ク其偽造ナルヲ證明スル憑據ニ非サルハナシ殊ニ第九
 號ノ證書中無何必跡ヨリ調印仕トアルハ直吉ノ自カラ押印セシ文
 意ニシテ結末親共ヨリ儘ニ承リ罷居トノ一句ニ至リ之レヲ亡父ノ
 押印セシ如クニ紛ラシタリ爰ニ最モ怪ムヘキハ寅之助調印ノ手續
 キコシテ取扱人寅之助ノ調印ヲ要スルハ證書差入人ノ大四郎ヨリ
 要スヘキ筈ナルヲ却テ其受取人ナル吉右衛門ヨリ其調印ヲ要シタ
 ルハ證書授受ノ順序ニ違ヒ情理共ニ有ルヘカラサルトナリ該書ヲ
 以テ漠然ナリト裁判之レアリ其漠然ナル所則返リ證等ノ偽造ナル

ヲ證明スルニ足ルモノナレハ該證ノ性質并ニ首尾牴牾スル所ニ付
 テ酒井直吉ヲ召喚アルヘキニ其儀ナシテ之ヲ擯斥サレシハ審理
 ヲ盡サ、ル裁判ト思考ス

第三條

同判文同條ニ原告第四號〔上告第〕七號證〔證書ノ如キハ被告ノ自筆ナルモ本〕
 訴ノ證書ト同文ニ非サル返リ證書ノ文按テ記載シタルノミナレハ
 右等ノ證ヲ以テ偽造物ナリトハ證明シ難シト裁判アリタレモ第七
 號證〔返リ證書〕ハ曾テ吉右衛門カ淡岳方へ持參シ此草稿ニ從ヒ第八
 號證七兵衛眞筆ノ書體ニ偽筆センコトヲ依頼セシ旨ニテ右二通〔第七〕
〔八〕號ハ淡岳ヨリ辻彦五郎へ送り原告幾四郎ハ彦五郎ヨリ受取リ
 シモノニ有之其草稿第七號證書中途抹セシ處ヲ注目スルニ七兵衛
 吉右衛門ノ文字ニシテ則七兵衛ヨリ吉右衛門宛ノ證書偽造ヲ依頼

セシニ相違無之然ルヲ原裁判所ニ於テハ第七號第八號證ヲ取消シタルノ裁判モナク只第七號證ハ返リ證書ト同文ナラサルノミチ指シテ返リ證書ヲ真正ノモノト見認メラレタレト原被ノ間ニ於テ往古ヨリ本訴ノ外ニ地所賣買セシコアラサレハ被告ニ於テ他ニ返リ證書ヲ要スルコト之レナキ等假令同文ニ非サルニモセヨ本訴返リ證書文體ヲ二様ニ起草シ其偽筆ヲ淡岳ニ依頼セシコト判然タルモノナリ然ルニ其文章ノ同異アルニ泥マレタルハ所謂偏見ニシテ其實ヲ得タルモノト謂フヘカラス

一被告カ本訴ノ確證トスル返リ證書ヲ原裁判所訟庭ニ於テ熟覽セシニ純然タル被告吉右衛門ノ眞筆ニ有之右ハ全該證書ノ偽造ヲ淡岳ヨリ斷ハラレ如斯密事ナレハ容易ニ他人ニ依頼シカタキナ以テ自筆ニテ偽造セシモノニ之レアルヘク且其同文ニアラサルハ淡岳

ニ依頼セシ草稿第七號證ハ淡岳ノ許ニ差置キタルニヨリ更ニ按文ヲ造リシモノニ之レアルヘシ然ルニ被告ニ於テハ該證書ハ大四郎ノ眞筆ナルヤ又ハ他人ノ代筆セシモノナルヤ其儀ハ心得サル旨遁辭ヲ爲スト雖モ書風ナルモノハ人々同シカラス其自筆ハ紛ラシ得ヘカラサルモノナルニ裁判官ハ其筆者ノ何人タルヲ糾サレヌ此レ乃チ審問ノ手續ヲ缺クモノト謂ハサルヲ得ス

一第七號ノ證書ニ就テハ第六號淡岳ヨリ彦五郎ノ書翰ノ證書ニ因リ彦五郎淡岳ノ兩人ヲ召喚アルヘキ筈ナルニ其儀之レナク本訴ノ證書ト同文ニアラサレハトテ其證人ニ就キ秩然タル證據ノ實際ヲ糾サレサルハ抑何等ノ主義アルヤ原告ニ於テハ之レヲ求ムルヲ得ス始審裁判所ニ於テハ淡岳ノミチ召喚之レアリ其節代人松原政右衛門出頭致シ被告ト馴レ合ヒ曖昧不當ノ儀ヲ申立タレト裁判官ハ之レヲ信

用セラレ遂ニ本人ヲ召喚モ之レナク裁判之レアリスヘテ裁判上證人ヲ召喚スルハ其ノ當時ノ事實ヲ證徴センタメナレハ決シテ代人ヲ許スヘカラサルモノニシテ始審裁判官ノ所置ハ其當ヲ得タルモノニ非ス上等裁判所ニ於テ有兩人ヲ召喚之レナキハ是レ又益其當ヲ得サルモノトス

第四條

同判文第二條ニ返リ證書中ノ下田一筆ハ原告所有ノ下田一筆ト同反別ニシテ分米ニ差異アルヲ以テ原告ハ自分所有地ニアラサル如ク申陳スレヒ云々證書面只一字ノ相違アルヲ以テ訴外ノ地所トハ看認メカタシトアレヒ該返リ證書ヲモシ真正ノモノト假想シ大四郎ニ於テ己レカ所有ノ地所ヲ證書ニ掲載シ之レニ捺印シタル上吉兵衛ヘ渡シタルモノトスルモ田地分米ノ如キハ名寄帳ニ判然記載

有之モノナレハ該證書ニ於テ緊要ナル分米高ヲ誤認スヘキ筈之レナシ然ルヲ被告ハ之レヲ筆者ノ誤リトナシ裁判官モ輕易ニ看過セラレ只一字ノ相違アルヲ以テ訴外ノ地所トハ看認カタシト判決セラレタリトイヘヒ若シ金圓ニ關スル契約ニシテ三ノ字ト五ノ字トノ相違ヨリシテ大ナル差異ヲ生セシ時ハ之チ一字ノ相違ナリトテ其原因ヲ推究セハシテ之レヲ不問ニ措カルヘキカ最モ該證ノ偽造物タルハ第三號ヨリ第九號ニ至ル迄ノ憑據ニ因テ明白ナリト雖モ右一字ノ相違ニ於テモ又其偽造ヲ看破シ得ヘキ一ノ端緒ナルニ之レヲ推究セラレサルハ審理ヲ盡サレサル裁判ト言フヘシ

第五條

同判文第三條ニ原告ニ於テ該地ヲ依藤惣三郎ヘ賣渡シタルハ證書ノ明文ノミニテ云々依テ該地ハ惣三郎ヘ賣渡シタルニ付今般被告

ノ請求ニ應シカタクキトノ原告申分ハ相立サルモノトスルアリトモ
 初メ該地ヲ賣渡シタル節ハ賣渡ノ明文ノミナリトイヘモ別冊第十
 號證(田地屋敷地)ノ如ク保長ノ奥印モ之レアリ然ラハ則右期限ノ後
 ニ至テハ其所有ノ權ハ原告ニ有スルモノニ之レナク到底被告ノ請
 求ニハ應シカタク且此等ノ件ニ就テハ依藤總三郎ノ關係ナレハ同
 人召喚ノ上實否推問アルヘキ筈ナルニ然ラスシテ該地所有ノ權ハ
 原告ニ有スル等疎漏ニ判決セラレシハ前條ト同ク審理ヲ盡サハル
 裁判ト言フヘシ

第六條

前條々ノ如ク本訴ノ原因ハ被告ニ於テ返リ證書ヲ偽造セシヨリ起
 リシモノニシテ其偽造ヲ證明スヘキハ淡岳カ書翰及ヒ之レニ附シ
 ヲル二葉ノ確證ナルニ之レヲ無効トシ該返リ證書ヲ以テ真正ノモ

ノト誤認セラレ其他右偽造ヲ證明スル件々ニ至テモ未ク審理ヲ盡
 サレサル廉少ナカラス所謂聽斷ノ定規ニ背クモノト思考スルニ付
 原裁判ヲ破毀シ更ニ至當ノ裁判アラシムヲ乞フ

被告 藤原吉右衛門答辨ノ要領

第一條

原告幾四郎ニ於テハ被告吉右衛門所有スル第一號返リ證書ヲ以テ
 偽作物ナリト主張スレモ該證ハ確實真正ノモノニシテ原告ハ該證
 ニ對シ當然ノ義務ヲ盡スヘキモノナルニ付上告要領ニ對シ逐項答
 辨スル左ノ如シ

第一項 論所字若宮ノ東上田三畝七步屋敷地同シロナヘ下田壹
 反三畝廿三步並ニ貳畝廿壹步ノ三筆ハ元來被告吉右衛門先代吉
 兵衛ノ所有地ニ有之處内二筆ハ原告幾四郎先々代東九郎ハ質物

ニ差入レ終ニ天保四年四月流地ト相成リ代價返償スレハ何時ニ
 テモ差戻スヘキ旨ノ返リ證書取置キ上田一筆ハ被告先代吉兵衛
 ヨリ玉野新家村源吉ヘ質地トナヒシニ該證書ヲ源吉ヨリ繁昌村
 小兵衛ヘ譲リ渡シ依テ小兵衛ヨリ質地帳切レノ訴訟ニ及ハレシ
 際被告先代吉兵衛ヨリ小兵衛ヘ地所建家共譲リ渡シ是又代價ヲ
 返償スレハ何時ニテモ差戻スヘキ旨ノ返リ證書取置キシ處尙ホ
 小兵衛ヨリ該地建家共原告先々代東九郎ヘ譲リ渡シタルニ付同
 人ヨリ更ニ返リ證書取置キ上田下田ノ三筆共被告先代ヨリ今ニ
 至ル迄小作致シ來レリ而シテ其返リ證書ニ依リ地所受戻シノ掛
 合中嘉永二年三月中被告先代吉兵衛死去シタルヲ以テ被告吉右
 衛門ヨリ原告先々代東九郎及ヒ同人死去ノ後ハ其相續人ナル大
 四郎ヘ掛合ヒ當時被告吉右衛門方ヘ取置タル返リ證書ニハ年限無

之ニ付年限及ヒ受戻スヘキ代價ヲ定メ慶應四年辰閏四月附ケノ
 證書取置キタリ而シテ受戻ノ期限相過キタルニ付明治八年十一
 月原告幾四郎ニ對シ地所受戻シノ義舊飾磨縣ヘ出訴シ同縣ヨリ
 神戸裁判所姫路支廳ニ涉リ審問ノ末被告吉右衛門請求ノ通り裁
 決相成タル處原告幾四郎ハ之レニ服セスシテ控訴及ヒ到底本訴
 ノ返リ證書ヲ不正トシテ縷々申述スト雖モ該證書タルヤ前陳ノ
 如ク漸々改正ナシタルモノナレト該地讓渡シ以來數年ヲ經明治
 元年ニ至リ初メテ收受シタルモノニアラス又受戻シ代價ハ上田
 ニ屬セシ建家ヲ彙キニ銀三百五十拾目ヲ以テ嘉永度ニ受戻シタル
 代價等ヲ差引計算シ更ニ銀貳百五十拾目ヲ增加シ改テ銀壹貫五百
 目ヲ以テ受戻スヘキ旨ヲ議上ニテ定メタルモノナリ證書面分米
 ノ相違スルハ筆者ノ誤リナルヘシ抑返リ證書トハ元ニ復スルノ謂

レナレハコソ元所有者タル被告ヨリ之レヲ受戻セハ理ノ當ニ然ルヘキモノナリ秦淡岳へ返リ證ノ文案ニテ通りテ付シタルハ其文案ニシテ地所取戻スヘキ權利アルヤ否ヤ問合セシ迄ニテ他念アラサリシトナリ原告證據物第三號ノ如キハ原告ヨリ小澤村辻彦五郎ヲ以テ秦淡岳ニ依頼シ同人ニ於テハ頼ニ應シ不正ノ書面差送リタルトニテ右ハ淡岳ノ代人ヨリ初審裁判所へ差出シタル左ノ陳述書ニテ明瞭ナリ

第三號證

口上

一御縣下加東郡小田村吉右衛門ヨリ幾四郎へ相掛リ田地取戻催促訴之事件ニ付私ヨリ小澤村彦五郎へ遣シ候書面ヲ以被告幾四郎ヨリ返答有之依右始末御尋ニ付左ニ奉申上候

一先年吉右衛門義田地返證文一件示談有之候得共私義ハ右様之事件不案内義ニ付相斷申然ニ昨八年七八月頃ニ小澤村彦五郎ヨリ吉右衛門幾四郎へ掛田地取戻一件出來有之雙方共同村之事故公裁ヲ不仰和談相成候様取扱致度候間右事件ニ其許殿少々承知之筋モ有之哉ト存候故委細申越被下度決而御縣廳へ證據杯ニ可致ニテハ無之何分下濟爲致候ハ、雙方ノ爲ニモ相成候間無疑念御申越可被下ト申來リ候得共凡十ヶ年モ相過候事故慥成事實覺不申候得共先年吉右衛門田地返書之下書持參致示談仕候節私相斷候ニ付其後ハ如何致候哉存不申段相答候得共彦五郎ヨリ下ニテ取扱而已之事ト色々依頼候ニ付任其意ニ書面相認メ遣シ候段私重々不調法恐入候依之只今吉右衛門所持致候返書ハ私一切存不申候然ニ此度右書面ヲ爲證返答候

段實ニ恐縮之至存候尤下方ニテ取扱之証ニ致度ニ付テハ印捺
相頼候故實ニ公裁ニ不相成ト心得無何心調印仕候彦五郎名當
之書面ヲ證トシテ御採用相成候段誠恐入候且ハ長々病氣大ニ
苦心難澁仕候乍恐右彦五郎ニ遺シ候書面之義ニ付私ニ相戻吳
候様被仰付度此段奉願候右之通り相違無御座候以上

大坂府下第三大區十

二小區新町南通二丁

目秦淡岳病氣ニ付代

明治九年第六月

松原 政右衛門

飾磨縣權令

森岡昌純殿

其他原告幾四郎陳述スル返リ證書偽造云々ノ義ハ一切無根ノ苦

情ニシテ就中該地ヲ村內依藤惣三郎ニ賣渡シタル等ノ陳述ハ原
告證據物第六號ノ通り明治七年九月廿日惣三郎ニ賣渡シタルモ
ノトスレハ明治八年六月以來再三該地小作ノ義ニ付原告ヨリ被
告ニ對シ訴訟ヲナスヘキ理由之レナク畢竟惣三郎ハ原告ト本分
ノ間柄ナルヲ以テ該地ヲ被告ニ引渡ス間敷ト賣渡シノ體裁ニナ
シタルヲ判然タリ依テ原告ハ被告提供スル返リ證書ニ對シ其義
務ヲ盡スヘシト大坂上等裁判所ニ於テ判決セラレタルハ至當ノ
判決トイフヘシ

上告要領第二項 前文ニ陳述セシ如クナルヲ以テ別ニ答辨ヲ贅
セズ

第三項 本項ノ如キハ被告ノ預リ知ル所ニ非ス

第四項 習慣云々此儀ハ人民ノ協議上ヨリ成立タル返リ書ナレ

ハ習慣ニハヨラサルモノナリ

第五項 其元價ニ不足ナル銀壹貫五百目ニテ買戻シテ約スヘキ等之レナシ云々陳述スレニ前文中ニ開陳ナス如ク元代價壹貫六百目ノ内居屋敷地ニアル建家ヲ彙キニ銀三百五拾目ニテ受戻チ爲シタルハ之レカ元價ハ壹貫貳百五拾目トナレリ然ルチ之ニ貳百五拾目ヲ増加シ都合壹貫五百目ト契約チナシタルモノナレハ元價ニ不足ナルトノ陳述ハ不當ノ陳述トイフヘシ

第六項 本項ハ第五項ニ陳述セシ如クナルチ以テ略之

第七項 原告先代大四郎へ被告ヨリ銀五貫目貸渡シタル際印形相渡タル云々主張ナスモ銀五貫目貸渡タルト相違之レナキト雖モ該證文ノ義ハ先方ヨリ認メ持參シタルモノニシテ印形受取タルトモ之レナシ又印形ナルモノハ他人へ渡スヘキ筈之レナシ

第八項 印形云々ノ苦情ハ第七項ニ開陳ナス如クナリ

第九項 村中ノ者集會云々陳述ナスモ決テ集會致シタルトナシ尤地券發行ノ際原告先代大四郎ト被告ト村役場へ申出被告居屋敷地辨利ノ爲メ是迄三畝七步ニ之アルチ地續ナル字黒ナベ下田ヲ減シ屋敷地へ増加ナシ都合五畝步ト改正ナシタルト被告並ニ大四郎立會村役場へ申出タリ

第十項 前文中ニ辨明ナス如ク被告第三號證書ニテ明ナリ

第十一項 返リ證書ハ被告ノ自筆ナル旨原告申述スレニ私認メタルモノニ之レナク原告第七號證ハ被告自筆ナレハ彼此照合ナラシトナシ

第十二項 返リ證タルモノハ名寄帳ニ記載ナス習慣ナル旨申述スレニ決テ定リタルモノニ之レナク加之該返リ書タルヤ熟議ノ

上ノ契約ヨリ成立シタルモノナレハ里正ノ立會ヲ要セサルモノナリ

第十三項 押印不足云々陳述スト雖モ田畑質入讓リ渡ト貸借ノ契約證トハ異ナルモノ故記名ノ下へ押印アレハ充分足ルヘキモノナリ

第十四項 總テ田地讓リ渡シ又ハ質入等ノ證書ニハ必ラス開發人ノ名稱ヲ肩書ス習慣云々陳述スト雖モ決テ是等ノ習慣アルコトナシ原告第十號證ニ於テモ開發人記名アルコトナシ之レ習慣ナラサルコトヲ證明スルニ足レリ

第十五項 分米相違云々陳述スト雖モ前文ニ辨解ナス如ク原告先代大四郎ノ書違ヒナルモノニシテ字反別原被符合スルニ依レハ大四郎ノ間違ナルコト瞭然ナリ

第十六項 返リ證文中ニ所有云々ト無異儀相戻ストアル云々其旨趣異ナルモノニシテ是等ノ廉毫モ妨アルコトナシ之レ至當ノ文意トイフヘシ

第十七項 取扱人寅之助印形云々陳述スト雖モ被告ノ知ル處ニ非ラス何トナレハ原告押印シテ持參シタルモノナレハナリ

第十八項 字行狹隘云々原告ヨリ持參シタルモノナレハ被告ノ知ル處ニアラス

第十九項 寅之助調印云々申述スレモ寅之助存命中調印シタルコト被告第二號證書ニテ明瞭ナリ

右原告陳述スル十九項ハ總テ僞言ニシテ敢テ信認スヘキコトニ非カレハ大坂上等裁判所ニ於テ事實審明ノ末至當ノ判決アリタルモノト思考ス

第二條

要領書第二條文中ニ扱入寅之助ノ押捺セシ云々喋々申述スレヒ總テ原告偽言ナルヲ證明スヘキ證ハ被告第二號證ニテ明白ナリ且又秦淡岳ヨリ辻彦五郎ヘ差送リタル第六號第七號證云々ノ義ハ被告第四號證ニテ是又原告申述ノ偽言ナルヲ明瞭ナリ

第三條

第三條文中ニ七號證云々陳述スレヒ前文中ニ開陳スル如ク該下書ニダ通りヲ以テ後日地所取戻スヘキノ權利ニ差支ナキヤ否ヤヲ問合セシ迄ニテ他念決テ之レナシ則被告第四號證ニテ明瞭ナリ且又十ヶ年以前ニ今日ノ訴訟ヲナス爲メ偽證認メ置ヘキ故アラス

第四條

第四條文中ニ分米差異アルヲ原告申述スト雖モ右等ノ廉ハ前文中

ニモ開陳ナス如ク大四郎書違タルヲ明瞭ナリ假令分米相違アルモ字反別總テ原被告申口符合ナス上ハ毫モ妨ケアルヲナシ左スレハ是等ノ廉ヲ喋々辨スルハ無益ノ苦情ニ過キス

第五條

第五條中ニ該地總三郎ヘ賣渡タル云々陳述スト雖モ被告第四號明治九年五月付券證ニ幾四郎ト記載アリ原告第十號證據物明治七年九月廿日付賣渡證ナリ是ニ依リ之レヲ視レハ原告偽言ナルヲ明瞭ナリ

第六條

前條々辨解スル如ク一體淡岳ヘ問合セタルニダ通りノ下書ハ其頃契約書受取ヘキ時ニ當リ權利アルヘキ文意ノ返リ書ヲ原告先代大四郎ヨリ取置シ爲メ問合セタルニ過キサルモノナリ若シ淡岳ニ秘

密ノ依頼ヲサセシモノナレハ該下案ヲ捨置ヘキ筈ナシ然レテ該下
案ノ淡岳ニ存セシハ淡岳へ問合中大四郎方ヨリ返リ證書ヲ認メ押
印ノ上持參シタル故ニ下案ノ如キハ反故ナレハコソ其儘淡岳ノ方
ニ捨置タルモノナリ故ニ該下案ノ淡岳方ニ存シアルヲ以テ被告第
一號真正ノ證據ヲ疑フヘキノ理由ナカルヘシ

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

被告藤原吉右衛門證據トスル慶應四閏四月ノ返リ證書ハ偽造ナ
リトノコ

辨明

本訴ハ返リ證書ノ眞價ヲ豫定スルヲ要點ナリトス然ルニ原告依藤
幾四郎カ大坂上等裁判所へ申立タル内左ノ條件ハ證據ノ端緒ト爲
スノ理由アリ

第一 秦淡岳ヨリ辻彦五郎へ對スル書面及ヒ被告吉右衛門カ自
筆ノ案文

第二 返リ證書ニ記スル金高ハ元價ヨリモ減少セシトノ事

第三 下田貳畝廿壹歩ノ分米三斗ト五斗ノ差違アル事

第四 返リ證書ハ證書受取人吉右衛門ノ自筆ナリトノ事

第五 返リ證書ニ記スル年月日ノ頃大四郎ノ印形ヲ吉右衛門へ

渡セシコアリトノ事

第六 返リ證書ニ連署セシ取扱人寅之助カ調印手續ノ事

右第一項ニ付テハ吉右衛門カ淡岳へ證書ノ偽造ヲ依頼セシコヲ幾

四郎カ聞込タル手續ヲ問糺シタル上彦五郎及ヒ淡岳等ヲ吟味シタ

ル上ニ非サレハ證書ノ眞價ヲ確定スルコトヲ得ヘカラサルモノトス

被告人ハ淡岳カ彦五郎へ送リタル書面ニ對シ淡岳ノ代人松原政右

衛門カ初審ノ節節磨縣廳へ差出シタル陳述書ヲ證據トシテ答辨ス
 ト雖モ如此場合ニ於テハ代人ノ陳述ハ以前本人カ陳述セシ證言ヲ
 變更シ又ハ取消スヘキ力ヲ有セサル者トス然ルチ大阪上等裁判所
 ハ淡岳彦五郎等ヲ問糺セスシテ原告幾四郎カ證據トスル證書ノ案
 文ト本證書ノ文面ト同一ナラスト云テ以テ幾四郎ノ申分不相立ト
 判決シタルハ盡スヘキノ審理ヲ盡サ、ル疎漏ノ裁判ナリトス
 右第二項以下ハ第一項ノ條件ノ參考ニ供スル迄ニテ單一ニ偽造證
 書ノ證據ト爲スニ足ラサルモノトス
 右ノ外上告ノ廉々アリトイヘトモ裁判ノ當否ニ關セサルヲ以テ一
 ヲ辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十年十月十三日大阪上等裁判所ニ於テ宣告

シタル裁判ヲ破毀シ更ニ東京上等裁判所へ移スニヨリ同裁判所ノ裁
 判ヲ受クヘキ者也

第百七拾四號

○蒸氣船二艘附屬品一式引渡違約上告ノ判文
 明治十一年五月
 四日上告
 明治十
 一年十月十
 九日申渡

原告

東京第五大區二小區神

田元久右衛門町二丁目

十番地平民

古川嘉平治

被告

東京第五大區二小區神

田元久右衛門町壹丁目

五番地寄留靜岡縣士族

同

坂本柳左
東京第二大區六小區西
ノ久保八幡町十五番地
寄留靜岡縣士族
土岐重光

東京上等裁判所ノ判文

第一條

原告ニ於テ甲第一號證書ニ右船附屬ノ品一式ト記載アルハ則初審
訴狀ニ記載スル所船表ニ相用ル碇貳挺外六拾八項ノ物品ナル旨申
立ルト雖モ

本文甲第一號證書ノ寫左ノ如シ

賣渡約定書

ニ列ズル

一 蒸氣船 壹艘

但凡長サ三拾壹尺幅七尺深サ四尺餘

木製

一 蒸氣船 壹艘

但凡長サ三十八尺幅六尺八寸深サ三尺七寸餘

此代價金六百十五圓也

同 同 但本日御渡ニ相成請取申候

同 同 殘金五百六十五圓也

同 同 內金貳百六十五圓也 但本月三十一日請取可申約

同 同 殘サ金三百圓也 但本年九月十五日請取可申約

右者當組所持之蒸氣船貳艘之内壹艘ハ鐵船猶壹艘ハ木船右船附

屬之品一式相添令般貴殿へ前書代價ヲ以テ賣渡約定申處實正也
 右船代金之内金五十圓本日御渡ニ相成正ニ請取申候殘金之儀ハ
 右約定之通御渡可被下約定之事
 一殘金五百六十五圓之内本月三十一日金貳百六十五圓御渡可被
 下約然ル上ハ木製船壹艘ハ御渡可申候猶殘金三百圓ノ儀ハ本年
 九月十五日限り皆金濟ノ上右約定ノ通鐵製船御渡可申約定右日
 限ニ至リ御違約ニ相成候ハ、請取置候金五十圓御損毛タルヘキ
 事

一前書但書日限ノ通船御渡申候節船免狀ハ不及申船印鑑共其筋
 へ出頭等ノ儀ハ御談シ次第無異儀取計可申候萬一右船ノ儀ニ付
 後日彼是苦情等有之節ハ拙者共引取貴殿へ聊御迷惑相掛ケ申間
 敷候此約定書ハ御取引濟ノ上賣渡本證文ト引換可申候爲後證仍

如件

第五大區二小區

神田元久右衛門町

一丁目六番地

平岡組

菊地熊雄代

同組

同所五番地

坂本柳左印

明治十年八月十六日

西ノ久保八幡町十

五番地

土岐重光印

古川嘉平治殿

原告ハ右船乗客ノ用ヲ爲スヲ述ヘ被告ハ合力船ナルヲ陳シ依テ考ルニ船ハ其用方ニ隨テ其附屬品モ異同アルヘキニ甲第一號證書ニ其用方ヲ記載セサレハ該證書ノ附屬品一式トアルハ果シテ右六十九項ノ物品ナリト認ムルニ由ナシ

第二條

船并ニ現在ノ附屬品則甲第二號證書ノ物品ハ檢査乗様シノ上買入ノ契約ヲ爲シタルコト原被口供ニ明瞭ナルヲ見レハ

本文甲第二號證書ノ寫左ノ如シ

鐵船ノ方

- 一古フヲフ棒 壹本 一古テンツニ相用鐵棒 拾本
- 一古梶ツカ 壹本 但テンツ無之

但鐵ナリ

- 一古子シ廻シ 貳本 一古火カキ
- 一古鐵テコ 五挺 一古テンツニ相用 有リカ子網 四枚
- 一古日ノ丸フヲフ 壹枚 一古腰掛ふとん 壹本
- 一古湯ドケイ 壹挺 一古テンツム子ハリ鐵棒 四本
- 但損シノ儘 拾四口

木船ノ方

- 一古フヲフ棒 壹本 一古梶ツカ 壹本
- 一古十能 壹本 一古火カキ 貳本
- 一古子シ廻シ 三挺 一古鐵ヅチ 壹挺
- 一古鐵棒 壹本 一古錨 但クサリ西洋綱共無之 壹挺
- 一古湯ドケイ 壹本 一古テンツ 壹張
- 但損シノ儘

拾口

但右テント附屬品無之

右者明治十年九月七日船附屬之品立會取調候處相違無之候ニ付
拙者共方へ右品有之候也

平岡組

第五大區二小區

神田元久右衛門町一

丁目五番地

坂本柳左印

明治十年九月七日

第二大區六小區

西ノ久保八幡町十五

番地

土岐重光印

古川嘉平治殿

甲第一號證書附屬ノ品一式トアルハ則甲第二號證書現在ノ附屬品
一式ヲ指稱セシモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ右船ハ何レモ
額破ノ趣ナレハ之ヲ買得スルニ檢査乗様シテ爲スハ素ヨリ當然ナ
ルヘシ然レハ其附屬品ニ於テモ其額破ノ摸樣ニ寄價額ヲ生スヘキ
モノナレハ檢査ヲ爲サスシテ買得スルモノアルヘカラスレハナリ
況ヤ其船既ニ額破セシモノナレハ其附屬品モ亦或ハ毀損シ或ハ散
失ナシト云ヘカラス然レハ其毀損散失ノ餘リ現在ノ物品則是其船
ノ附屬品一式ナルニ非スヤ

第三條

原告ニ於テ乘馬又ハ外國人ト船賣買ノ譬論アリト雖モ都テ其契約

疎漏ナレハ他日争論ノ起ルモニ付是等ノ譬諭ヲ以テ其請求ヲ補助スル理由トナルモノニ非ス又原告ニ於テ附屬品不殘揃ハサレハ乗客船ノ用ヲ爲サス等云々申立ルト雖モ此契約證書ニ於テ如何ナル用方ニ付其要用ナル附屬品ハ悉ク賣買セシト云ノ明文ナケレハ原告望ム所ノ用ヲ爲スト否トニ至ルマテ被告ノ關知セシモノトハ認メ難シ

第四條

原告ニ於テ右船二艘ノ直段合テ四百圓附屬品一式ノ直段ハ貳百圓餘ト見込タルニ若當時附屬品一式不相添モノナレハ此契約證書ニ記載アル六百拾五圓ノ代金ニハ不買入旨申立ルト雖モ被告カ横濱税關ヨリ買受タル代金ハ五百五拾圓ニテ修覆ヲ加ヒタル入費三百九拾圓ナルコトハ被告乙第三號第四號證書ニテ明カナレハ

本文乙第三號第四號證書ノ寫左ノ如シ

乙第三號證

古蒸氣船貳艘拂下代

一 金五百五拾圓

右正ニ落手候也

明治九年三月十八日

横濱税關印

乙第四號證

一 金三百七拾五圓

一 同 拾五圓

小蒸氣船貳艘
修覆料
火焚
壹ヶ月半取替

印 金三百九拾圓

右正ニ受取候也

九年五月三十日

横濱製鐵所印

○檢 岡本
竹中重固殿
菊地熊雄殿

當時右船二艘並現在ノ附屬品ノミニテ六百拾五圓ノ價位ナキモノ
ト云ハ其證據ナクシテ其價位アリシト云ノ證左アルモノトス

第五條

前條々ノ理由ナルニ付被告申立ノ通甲第一號證書附屬ノ品一式ト
アルハ甲第二號證書記載ノ現在附屬品一式ヲ指稱セシモノト認定
ス依テ原告請求不相立候事 明治十一年
二月六日

大審院ニ於テ

原告 古川嘉平治上告ノ要領

第一條

該船買入ノ約ヲナスニ際シ船檢査ノ節附屬品ノ有無ヲ問ヒタルニ
要用ノ附屬品ハ一式相添ユ可キ旨確答セシニ依リ一應檢査セント
欲セシニ該船ハ其組中菊地熊雄ナル者持主ト相成居附屬品諸所ニ
散亂シアレハ熊雄ナラテハ見出シ難シ然ルニ熊雄儀當時旅行不在
ニ付歸京ノ上船引渡ノ際ニハ船ニ添ユ可キ要品ハ必ス一式相添ユ
可キ旨申述セシニ付原告方ニテ一時要品ヲ他借シ乘様ヲナシ價格
及ヒ取引ノ期日ヲ定メ契約書ヲ受領シ内金相渡シ約定ノ期日ニ至
リ木製船ヲ受取ラントシ其附屬品ヲ檢査スルニ一式ノ品ニハ十分
ノ一ニモ足ラス即附屬品一式トアレハ該船運轉ヲナスノ要品則チ
船表ニ用ユル碇貳挺外六拾八箇ノ物品附屬スヘキハ論ヲ竣タサル
ナリ然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ甲第一號證書ニ其用方ヲ記載
セサレハ該證書ノ附屬品一式トアルハ果シテ右六拾九項ノ物品ナ

リト認ムルニ由ナシト判決アリシハ審理ノ至ラサル不法ノ裁判ト
思考ス

第二條

明治十年九月七日附甲第二號證ノ如キハ勸解不調ノ節原被雙方立
會ノ上現在ノ物品ヲ檢査シタル時取調タル迄ノモノニテ甲第一號
證ノ一式トアル物品ヲ指稱セシモノニ非ス且乘樣ヲナシタル時ハ
第一條ニ陳述スル如シ其要用ノ器械ハ自分方ニテ他借シ乘樣ヲナ
シタルハ甲第二號證ニアル物品ハ賣買約定ヲ取結フノ際檢査セシ
モノニ非ルナリ然ルチ東京上等裁判所ニ於テハ甲第二號證ノ物品
ハ檢査乘樣ノ上買入ノ契約ヲ爲シタルモノト見認ラレ甲第一號證
ニ附屬ノ品一式トアルハ甲第二號證ニ記載ノ現在附屬品ヲ指稱セ
シモノト認定スト判決アリシハ法官ノ臆斷ニ出テタル不法ノ裁判

ト思考ス

前條々ノ如ク東京上等裁判所ノ裁判ハ不法ナルニ付破毀アラント
ト乞フ

辨明

第一條

上告人ハ明治十年八月十六日金六百拾五圓ヲ以テ被告坂本柳左外
一人ニ對シ其組中所持ノ蒸氣船二艘買入レノ約定ヲ爲シ該金額五
拾圓ハ其當日之ヲ渡置キ又金額貳百六拾五圓ハ右船二艘ノ内木製
船引取ノ節乃チ八月三十一日ニ於テ之ヲ渡スヘシ殘金三百圓ハ九
月十三日ニ於テ之ヲ渡スヘシ云々該契約ノ顛末ハ上告人ニテ提供
シタル第一號證及ヒ上告人ノ供述ニ依テ明瞭ナリトス凡ソ船ノ新
古ヲ論セス該船ノ器具ト稱スル者アリ又其附屬品ト稱スル者アリ

就テ之ヲ區別スルニ該器具トハ緊要物品ノ最モ緊要ナル者ヲ指稱シ
 シ諭ヘハ大小ノ錨或ハ湯時計ノ類ニシテ該船ノ運用ニ關スル殊ニ
 緊要ナリ又其附屬品トハ器具ノ緊用ナラサルニ非サルナリ然レト
 モ事宜ニ依リ物品ノ員數ヲ減スルモ猶其用ヲ爲ス者ニシテ諭ヘハ
 飲食器具ノ如キ皆其類ナリ今第一號證ノ契約ハ該器具ト附屬品ト
 ナ混シ附屬品一式云々トノミ記載シタルハ獨リ契約ノ疎漏ト謂フ
 ヘキノミナラス上告人ニテ要求スル所ノ錨貳挺外六拾八項ノ物品
 ナ指稱シタルニ非サルハ更ニ論ヲ待タサルナリ且上告人ニテ提供
 シタル第二號證ト及ヒ其供述トニ就テ之ヲ觀ルニ明治十年九月七
 日原被雙方立會ノ上其附屬品ヲ檢閲シ乃チ第二號證ノ如ク現在物
 品ノ員數ヲ記載シ被告ヨリ之上上告人ニ渡置キタルノ顛末ハ亦明
 瞭ナリトス此時ニ當リ上告人ニ於テ其附屬品一式トハ錨貳挺外六

拾八項ノ物品ヲ指稱シタリシトセムカ現在ノ物品ハ僅カ十分ノ一
 ニニシテ他ニ散在シタルノ物品ハ八九分ノ多キニ至レリ而シテ其
 運動ニ關スルノ器具ハ完全ナルヤ缺損アルヤ飲食器具ハ幾人ノ用
 ニ供スヘキヤ一々尋問ヲ遂ケ縱令現品ヲ檢閲セサルモ別ニ之ヲ記
 載シ置クハ至當ノ處分トス然ルニ是等ノ儀ニ付キ何等ノ尋問ヲ加
 ヘス第二號證ノミヲ取置タル上ハ上告人ニ於テ既ニ第一號證中契
 約ノ附屬品一式トハ此現在物品ナリト認視シタリシ者トス東京上
 等裁判所ノ判文ニ於テ現在ノ物品則チ是其船ノ附屬品一式ナリト
 判決シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

第二條

上告人ハ其提供シタル第二號證ト被告コテ提供シタル第五號證ト
 ハ物品ノ不足ヲ生スノミナラス右第二號證ハ明治十年九月七日勸

解不調ノ節原被雙方立會ノ上現在物品ノ檢閲ヲ爲シタル迄ニシテ
之ヲ約定取結ヒタルノ時記載シタルノ證書ニ非サルナリ然ルニ東
京上等裁判所ハ徒ニ第二號證ニ依テ其裁決ヲ爲セリ是同裁判所ハ
其買入ノ約定ノ日ニ成立タサル第二號證ニ依リ裁判ヲ爲シタル者
ナリト申立ルト雖モ第一號證附屬品一式云々ノ旨趣ニ於テハ前既
ニ辨明スル者ノ如シ而シテ勸解不調ノ節ニモモセヨ原被雙方ニテ現
在ノ物品ヲ檢閲シ其證書ヲ取置キタリシ以上ハ上告人ニ於テハ第二
號證ヲ以テ第一號證ノ旨趣ヲ確認シタル者ナリ東京上等裁判所ノ判
文ニ於テ右二號證ヲ以テ判決ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀ス可キ理由ナ
キ者トス

第七拾五號

○裁判不法ノ執行救正一件上告ノ判文
明治十一年七月一日上
告
明治十一年十月廿三
日申
渡

原告

埼玉縣下武藏國入間郡

牛子村總代人

東京府下新橋日吉町

野澤 雞 一

右代言人

同府下同町

司法省附屬代言人

星

亨

被告

埼玉縣下武藏國入間郡

南田島村

東京上等裁判所ノ審判

島村源右衛門
外 一 同

原告 牛子村總代野澤雞一訴訟ノ要領 明治十一年六月十三日

第一條 據テ執行スヘキ規準

第一項 文政六年ノ爲取替濟口證文ノ第三項ニ(新土手際ヨリ中程新定杭迄ノ儀ハ先年出入ノ節論所ニ相成候故高下モ相極リ罷在)トアリ之ヲ東京上等裁判所ハ(當時)ニ在テスラ猶原被問ノ論所ハ中央定杭ヨリ東ノ方木野目村境迄ノ間ニ止マリ而シテ此先定杭ト新定杭トノ間ノ地ハ曾テ論争ニナリタルコトナシ然ルコト今サテ何ソ此箇所ニツキ復テ論スルコトヲ得ン何トナレハ(新土手際ヨリ新定杭迄ノ儀ハ先年高下モ相極マリ罷在)トアルヲ以テ此箇所ノ實ニ増損セサ

リシコト又決シテ増損スヘカラスナルコト(明カ)ナレハ(ナリ)ト御裁判相成タリ又大審院ニ於テハ其辨明ノ第一條ニ(新土手際即チ先定杭ヨリ中程新定杭迄ハ先年相極リ已ニ去年モ増定杭ヲ打タルコトニテ他ノ木野目村境迄ヲ論所ト爲シタルコトハ決シテ無之トノ心底ナリ)ト辨明セラレタリ

(約説)先定杭ノ所在タル新土手際ト新定杭トノ中間ハ先般當牛子村及南田島村ノ間ニ争訟ノ起レル際大審院モ東京上等裁判所モ之ヲ増築セヨトモ削平セヨトモ斷定相成タルニ非ス却テ此箇所ニハ手出スヘカラス該爲取替證文ハ決シテ動カスヘカラスト確的ニ御睇認相成タルコトナリ故ニ此中間ハ古來在形ノ通差置ヘクシテ如今其高低ニツキ何人ニテモ加減スルコトヲ得サルモノトス

第二項 該爲取替濟口證文第四項ニ(新定杭ヨリ上ノ方木野目村境

迄先定杭貳寸高ニ相極トアリ之ヲ東京上等裁判所ハ中央定杭ヨリ東ノ方木野目村迄ヲ限リ其中間ノ高サヲ中央定杭ヨリ西ノ方洗流シ迄ノ定度ヨリ貳寸高ニ築立ル定メナル事明白ナリト斷定相成タリ而シテ大審院ニ於テハ其辨明ノ第三條ニ東京上等裁判所カ東西貳寸ノ高低ヲ爲スト判決セシハ水面ヲ高低スルトニハアラテ地形ニ係ハリ中央定杭ヨリ東ノ方ノ堤防通路ノ地形即チ馬踏ノ平面ハ中央定杭ヨリ西ノ方ノ地形ノ定度ヨリ貳寸高ニ築立ツヘシトノ謂ナリト辨明セラレタリ

〔約説〕新定杭ノ以東乃チ其上流ノ方木野目村境マテノ間ハ其高サノ度ヲ測リ出スニ該新定杭ノ以西乃チ下流ノ方洗流マテノ長延ノ高サヲ規準トシ由テ以テ其規準ヨリモ高キヲ貳寸タルヲ得ヘキナリ

第三項 其濟口證文第四項ニ已後出水ノ節兩村役人共立會右貳寸高ニ水行見平均流水可仕等トアリ但シ原文ニ所謂ル水行見平均トハ漲流ナル水ノ高度ニ比準スルト云フノ意味ナリ之ヲ大審院ニ於テハ其辨明ノ第一條ニ中央新定杭ヨリ木野目村境ニ至ルマテノ場所ニ就キ先定杭二寸高ニ水行ヲ見平均スルトニ熟議セシモノナリト辨明相成タリ

〔約説〕新定杭以東木野目村境マテノ長延ハ向后出水スルヲアラン時雙方ノ村吏相點檢シ何レノ部分ニテモ該新定杭以西ノ長延ノ高サヨリモ二寸ツ、高シ築立ルコトハ其流水ノ高サニ比準スヘシト約シタルモノニテ且大審院ニ於テモ左様ニ御認定相成タル所ナリトス故ニ該新定杭及木野目村境間ノ箇所ハ其高サヲ測ルニ水高ニ準スヘキモノニシテ決シテ正角ヨリ割出シタル平直線ニ